

# 国立国語研究所学術情報リポジトリ

## 日本語でだいじょうぶ シナリオ集

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2022-04-22 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 国立国語研究所 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.15084/00003538">https://doi.org/10.15084/00003538</a>

日本語教育映像教材 初級編  
日本語でだいじょうぶ

**シナリオ集**

国立国語研究所

日本語教育映像教材 初級編

# 日本語でだいじょうぶ

シナリオ集

国立国語研究所

## 刊行のことば

国立国語研究所日本語教育センターでは、外国人に対する日本語教育に役立てるため、平成5年度から7年度に、ビデオ教材『日本語教育映像教材初級編「日本語でだいじょうぶ」』全4ユニットを作成しました。この『シナリオ集』をはじめとする関連教材シリーズは、そのビデオ本体を有効に利用するための資料として発行するものです。

『シナリオ集』は、ビデオ本体に描かれた場面状況、映像・音声の内容に関する注記などを含む教授者向けの「解説」の部分と、せりふ内容を文字化した「学習者用シナリオ」とからなっており、この教材を利用するための基礎的な資料として作成されています。

この『シナリオ集』の編集は、次の者が担当しました。

中道真木男（日本語教育センター日本語教育教材開発室長）

土井真美（日本語教育センター日本語教育教材開発室

客員研究員）

本書が視聴覚教育のための資料として有効に活用されることを期待します。

平成8年3月

国立国語研究所長

水谷修



# 「日本語でだいじょうぶ」

シナリオ集

## 〈目 次〉

解 説 .....	1
『日本語教育映像教材 初級編	
「日本語でだいじょうぶ」』について .....	3
‘セグメント’と‘ストーリー’ .....	4
ストーリー展開と人物 .....	8
学習者用シナリオ .....	19
(ユニット1) セグメント 1 .....	20
セグメント 2 .....	22
セグメント 3 .....	25
セグメント 4 .....	28
セグメント 5 .....	31
セグメント 6 .....	34
セグメント 7 .....	37
セグメント 8 .....	39
セグメント 9 .....	41
セグメント10 .....	44
(ユニット2) セグメント11 .....	47
セグメント12 .....	48
セグメント13 .....	50
セグメント14 .....	53
セグメント15 .....	55
セグメント16 .....	58
セグメント17 .....	60
セグメント18 .....	62
セグメント19 .....	64
セグメント20 .....	67
(ユニット3) セグメント21 .....	69
セグメント22 .....	72
セグメント23 .....	74
セグメント24 .....	76
セグメント25 .....	78
セグメント26 .....	79
セグメント27 .....	82
セグメント28 .....	84
セグメント29 .....	86
セグメント30 .....	88
(ユニット4) セグメント31 .....	90
セグメント32 .....	92
セグメント33 .....	95
セグメント34 .....	98
セグメント35 .....	101
セグメント36 .....	102
セグメント37 .....	105
セグメント38 .....	107
セグメント39 .....	109
セグメント40 .....	111
『日本語教育映像教材 初級編』作成関係者 .....	113

---

# 解 説

---

# 『日本語教育映像教材 初級編

## 「日本語でだいじょうぶ」』について

**用 途** 『日本語教育映像教材初級編「日本語でだいじょうぶ」』は、特定の学習内容を扱ったものではなく、さまざまな視点から分析することによって多様な用途に使用することを想定して作られている。

この教材が対応しようとする最も主な学習内容は、(1)言語構造に関する知識を実際の言語使用場面の中で確認すること、(2)さまざまな場面状況の中でことばがどんな働きをするかを知ること、(3)ことばの運用を含めた適切な対人行動の例を観察すること、の3点であるが、その他にも、それぞれの学習者の状況に応じてさまざまな観点からこの映像を分析し、必要な情報を利用することができる。

この教材は、基本的に、教授者が選択・抽出した映像を学習者に提示しながら教授活動を行う形態で使用されることを想定している。コンピュータ等を使用して、この映像を用いた独習用プログラムを作成することも可能であり、今後、そのような形態の教材を試作することも検討されている。

**対象学習者** この教材で使用する文法的項目は、既存の初級日本語教科書の多くが扱っている範囲におおむね限定されている。語彙の面では、機能語および用言等は、おおむね、初級範囲に限定されているが、名詞類等は、場面状況から必要なものが特に制限をせずに用いられている。

この教材が最も主な対象として想定する学習者レベルは、いわゆる初級の前半を終わって、基本的な文型等の半数以上を学習した段階である。

この段階では、知識として学習してきた言語形式を現実の場面に適用するための練習に本格的に取り組み、状況に応じた表現形式の選択を意識することもできるようになると思われる。この教材が提示する各種の場面とタスク、それらのタスクを遂行するストラテジー等を例として観察し、なんらかの状況を設定して学習者自身がタスクを遂行する練習活動に結びつけることが、最も基本的な使用法として想定される。

また、この教材は、初級段階で学習する主要な文法・語彙項目のうち、映像によって状況とともに提示されるのが有効であると考えられるものを含んでおり、そうした言語構造的項目の導入・復習に利用することもできる。

一方、サバイバル目的やごく早い段階の学習者に対しては、言語形式を分析的に扱うのではなく、状況と特定の形式を直接結びつけるやり方をとるなら

ば、利用が可能である。この教材が提示するさまざまな場面で用いられるせりふを「決まり文句」的に記憶するなどの形で、場面状況への対処を学習することが、言語形式の分析理解よりも、むしろ有用である学習者は少なくないはずである。

さらに、中級以上の学習者にとっても、この教材が提示するような場面状況に対処するストラテジーの例を観察することは、社会文化行動の基本的な枠組みの意識化のために有効な学習となりうる。知識としては、ここで用いられているよりもさらに高度な言語形式を操ることができるとしても、その適切な選択のためには、場面状況を構成している諸要因を正しく分析把握する能力と習慣が不可欠であり、単純化された状況例として、この教材の映像は、高いレベルの学習者にとっても、十分に有用である。

**教材体系** この教材は、本体である映像と書籍形態の関連教材シリーズとから成り立っている。

本体映像は、4つのユニットから成り、各ユニットは10のセグメントを含んでいる。各セグメントの長さは平均3分で、全40セグメントの合計の長さは約120分である。発売形態は、各ユニットを上・下各5セグメント（約15分）ずつに分割した計8巻のビデオテープで、録画方式は、VHSの他、各方式に対応することが可能である。

映像の内容は、ドラマ形式の実写映像を基本としている。映像は、すべて観察対象としての言語使用および社会行動の例を描いたもので、それらに関する解説・ドリル課題等は含まれていない。出演者は、日本人および外国人で、使用言語はすべて日本語である。

関連教材シリーズは、平成7年（1995年）度刊行の本書「シナリオ集」および「語彙表」を含め、当面4種が予定されているが、平成8年（1996年）度以降の刊行内容の詳細は未定である。

## ‘セグメント’と‘ストーリー’

**ユニット** 各ユニットには、それぞれを一貫するテーマが設けられており、そのユニットに含まれる各セグメントは、このテーマに関連する談話例を中心に構成されている。各ユニットのテーマは6ページの一覧表に示す通りである。4つのユニットのタイトルは、以下のとおりである。



ユニット1 よろしくお願ひします      ユニット2 よくわかりました  
ユニット3 とてもいいですね      ユニット4 また会いましょう

**ストーリー** 全4ユニットを通じて、4つの‘ストーリー’が展開される。各ストーリーは、それぞれ決まった主人公を中心に、それぞれゆるい連続性のある物語として4ユニットの中に順次配置されている。各ストーリーは、それぞれ人間関係を異にする登場人物の間での言語使用や伝達行動を描いており、それぞれの人間関係に現れることの多い種類の談話例を取り上げている。具体的な内容は、以下に解説する。4つのストーリーのタイトルは、以下のとおりである。

ストーリーⅠ 勉強      ストーリーⅡ 友達  
ストーリーⅢ 仕事      ストーリーⅣ 恋人

**映像素材** 各ユニットに1セグメントずつ、‘映像素材’と呼ぶセグメントが含まれている。これらのセグメントは、上記の各ストーリーには含まれない。せりふ内容等の言語形式を提示することを最小限におさえ、画面からの視覚情報のみを切り離して学習に利用することを目的としている点で共通するが、内容としては相互に関連はない。具体的な内容は、以下に解説する。

**音声チャンネルの分離使用** この教材の音声は、基本的にはモノラルで、主音声（左チャンネル）と副音声（右チャンネル）には同じ音声が録音されているが、映像素材のいくつか、および、他のセグメントのうちの必要箇所では、主音声・副音声の2チャンネルに別々の音声で録音された部分がある。電話場面で、一方の話し手の発話が主音声、他方が副音声に録音されており、両チャンネルを同時に再生して会話例として用いたり、一方のチャンネルのみを再生して他方の発話内容を推測させたりする使い方が想定されている場合や、画面の実況音に対するナレーションなどが副音声に録音されており、画面情報のみを提示してそれを言語化することを中心とした学習活動に利用することが想定されている場合などがある。

## ユニット別セグメント一覧

### ユニット 1 よろしくお願ひします

主に、接触の開始、特に、初めての相手との接触の開始のしかた、互いに関する基本的な情報の求め方・与え方、親しくなるための談話などを描く

セグメント	タイトル・サブタイトル	所属ストーリー
1	遅刻 — 尋ねる —	[ I (a) ]
2	新しい友達 — お礼を言う —	[ II (a) ]
3	忙しい一日 — 指示する —	[ III (a) ]
4	日本ははじめてです — 紹介する —	[ I (b) ]
5	この次は来月 — 約束する —	[ III (b) ]
6	ぼくがおごります — 親しくなる —	[ II (b) ]
7	私の町	[ 映像素材(a) ]
8	待ち合わせ — おしゃべり —	[ I (c) ]
9	プチトマト！ — 買物 —	[ II (c) ]
10	お魚はちょっと — いっしょに作る —	[ II (d) ]

### ユニット 2 よくわかりました

あるタスクを遂行するために必要な情報の求め方・教え方や、事情を話して相談し、解決方法を決めるやりかたといった「情報」のやりとりに重点を置く

セグメント	タイトル・サブタイトル	所属ストーリー
11	川で — 出会う —	[ IV (a) ]
12	船に乗ってみますか — 案内する —	[ III (c) ]
13	お茶にします — アドバイス —	[ II (e) ]
14	お礼状？ — 教わる —	[ I (d) ]
15	実は …… — 報告する —	[ III (d) ]
16	よくわかりません — あきらめる —	[ II (f) ]
17	それでOK！ — 説明する —	[ III (e) ]
18	就職 — 様子をきく —	[ IV (b) ]
19	校外学習 — 話し合う —	[ I (e) ]
20	花火	[ 映像素材(b) ]

### ユニット 3 とてもいいですね

場面の性質や対人関係に応じて、適切なことばや非言語行動などを使い分ける‘待遇行動’としての伝達行動を中心に扱う

セグメント	タイトル・サブタイトル	所属ストーリー
2 1	海の底 — ことばで表す —	[Ⅱ(g)]
2 2	少々お待ちください — 応接 —	[Ⅲ(f)]
2 3	これはどうですか — 相談する —	[Ⅰ(f)]
2 4	静かに！ — うわさ話 —	[Ⅰ(g)]
2 5	卒業コンサート	[Ⅳ(c)・映像素材(c)]
2 6	ふりそで — 教わる —	[Ⅰ(h)]
2 7	ソトかうちか — 敬語 —	[Ⅲ(g)]
2 8	お祝いです — 贈り物 —	[Ⅳ(d)]
2 9	私の原稿は — 行き違い —	[Ⅱ(h)]
3 0	さよならですか — 伝える —	[Ⅳ(e)]

### ユニット 4 また会いましょう

意志・感情・希望など、主観的な内容を適切なやり方で表現することを含めて、総合的なコミュニケーションの適切な方法を学習する

セグメント	タイトル・サブタイトル	所属ストーリー
3 1	うまく書けました — 筆で書く —	[Ⅰ(i)]
3 2	お通夜 — 気持ちを表す —	[Ⅱ(i)]
3 3	いやだよねえ — あいつち —	[Ⅲ(h)]
3 4	すれ違い — 事情を話す —	[Ⅳ(f)]
3 5	子供部屋	[映像素材(d)]
3 6	インタビュー — 聞き手と話し手 —	[Ⅰ(j)]
3 7	まだ痛いですか — お見舞い —	[Ⅳ(g)]
3 8	夢なんです — 希望を述べる —	[Ⅱ(j)]
3 9	決めました — 決意を述べる —	[Ⅱ(k)]
4 0	これからも…… — 退院 —	[Ⅳ(h)]

# ストーリー展開と人物

この教材で設定されている4つのストーリーと映像素材の内容は、以下のようである。

---

## ストーリー I

## 勉強

---

日本語学校の学生・張と仲間たちの学生生活を軸に、いろいろなエピソードが展開する。ことばや文化に関するやりとりが多く現れる。

【主な登場人物】 張 玉 萍 中国人、日本語学校学生

パチャリー・ラタナーワン タイ人、張の同級生

ミーチャ ロシア人、張の同級生

後藤 紀子 日本語学校教師

武田 芳子 会社勤め、張の保証人の娘

(ユニット 1) 張は、大学受験の準備のために日本語学校に通う就学生。担任は、後藤先生で、同級生にパチャリーらがいる。来日の際に保証人を引き受けてくれた武田氏の娘・芳子とは、たびたび会ってショッピングなどを楽しむ仲。

(a) セグメント 1 遅刻 ― 尋ねる ― 11月中旬の月曜日。学校に遅れそうな張は、急いで駅に向かうが、見知らぬ女性に道をきかれ、貴重な時間を取られてしまう。駅の通路に來ると、発車のベルが聞こえる。あわてて階段を駆け上がると、ベルは隣のホーム。こちらのホームには電車が停車中。乗り込み、アナウンスを聞くと、この電車は方向違いで、しかも特急。乗り合わせた乗客に教わって乗り換えるが、遅刻。教室では、同級生たちが「冬休みの旅行」の作文を書きはじめていた。

(b) セグメント 4 日本ははじめてです ― 紹介する ― 11月下旬になって、張のクラスに新しい学生クレイグが加わった。質問攻めにする同級生たち。その日、パチャリーは気分が悪く、授業を抜けて医務室へ。

(c) セグメント 8 待ち合わせ ― おしゃべり ― 12月中旬の日曜日。いっしょにショッピングにでかける約束をした張と芳子は、喫茶店で待ち合わせ。歩きながら正月の予定など、おしゃべりに興じる。



(ユニット 2) 張の日本語学校生活は、2年目に入っている。

(d) セグメント14 お礼状? — 教わる — 9月のはじめ。張は、保証人の武田家を訪ね、夏休みに旅行で行った信楽のみやげを渡す。世話になった知人に礼状を出すように言われ、書き方についてアドバイスを受ける。

\*場面(2)で画面に表示される手紙の文面は、せりふ内容どおりで、礼状の要点を文字化したもの。

その節はありがとうございました  
とても楽しかったです  
遅くなって失礼いたしました  
写真ができたのでお送りします  
またいつかおじゃましたいと思います  
お元気で

(e) セグメント19 校外学習 — 話し合う — 10月中旬の水曜日。校外学習の計画について、クラスで話し合う。今年から同級生になったミーチャが、日光へ行くことを主張。張たちは、その提案に反論。パチャリーは水族館見学を提案する。

(ユニット 3) 大学の入学試験を間近に控えた張たちは、受験勉強に忙しい。

(f) セグメント23 これはどうですか — 相談する — 2月のある日。日本とアジアとの貿易について調べている張は、図書館の相談係に相談し、何冊かの参考書を紹介してもらう。

(g) セグメント24 静かに! — うわさ話 — 2月中旬のある日。張とパチャリーが図書館で勉強していると、ミーチャが入ってきて、後藤先生が突然外国へ行ってしまうとのこと。卒業まで後藤先生に教えてもらえると思っていた3人にはショック。大声を出すミーチャを図書館から連れ出し、パチャリーの発案で、送別会の相談をする。

\*場面(2)の最後、ビルの上の方を指さしながら話していると、しだいに通行人が立ち止まり、その方を見上げだす。5、6人の人だかりになり、気付いた三人は、こっそり逃げ出す。通行人たちが散っていった後、ビルの横をUFOが飛ぶ。

(h) セグメント26 ふりそで — 教わる — 3月上旬のある日。大学への

入学が決まり、日本語学校の卒業を間近に控えた張とパチャリーは、卒業パーティーで着る振り袖を選ぶため、芳子といっしょに貸衣装店を訪ねる。

(ユニット 4) 張、パチャリー、ミーチャは、それぞれ別の大学に進学している。

(i) セグメント 31 うまく書けました — 筆で書く — 9月初めの休日。書道を習う張、パチャリー、ミーチャ。

\*場面(1)は、「永」の手本を書く沢村の筆先。場面(3)で、沢村は、草書というより、芸術的な作品としての「草花」を書く。画面では、書き上がった書の脇にテロップで楷書体の「草花」が表示される。

(ii) セグメント 36 インタビュー — 聞き手と話し手 — 9月中旬の日曜日。張、パチャリー、ミーチャ、芳子の4人は、ハイキングに出かけ、川原でバーベキューをしている。3人に大学生活について尋ねる芳子。

\*場面(2)で、芳子は、ニンジンマイクに見立てて握っている。

---

## ストーリー II

# 友 達

---

留学生の王とその友人・山田、朴の付き合いを軸として展開するストーリー。親しい間柄での言語使用が中心となる。

{主な登場人物} 王 崇 梁 中国人、教育行政専攻の南海大学研究生  
山田 康 浩 南海大学国語学科助手  
朴 海 煥 韓国人、南海大学大学院生、王の先輩  
小川 明 美 看護婦、山田のガールフレンド

(ユニット 1) 王は、来春大学院を受験するため、11月に来日、南海大学の研究生になったばかり。偶然、同じ南海大学国語学科助手の山田と知り合い、山田のガールフレンド・小川や大学院の先輩・朴らを交えて付き合うようになる。

(a) セグメント 2 新しい友達 — お礼を言う — 11月中旬の月曜日の朝。いつもとは違うルートで大学へ行こうとした王は、バスに乗るが、小銭の持ち合わせがなく、困ってしまう。その時バス代を出してくれた山田は、同じ南海大学の助手だった。互いのことを話すうち、親しくなっていく。

(b) セグメント 6 ぼくがおごります — 親しくなる — ボーナスをもら

った山田は、王をてんぷら屋に招待。ガールフレンドの小川を紹介する。王は、近いうちに中華料理を作ってごちそうすると約束。

(c) セグメント 9 プチトマト! — 買物 — 12月中旬の金曜日。先日約束した中華料理パーティーのため、王、朴、山田、小川の4人は材料を買いに出かける。王と小川は八百屋で買い物。そこへ、手みやげを買いに行った朴と山田が合流。そろってスーパーへ。買い込んだ材料を持って、一同は、王のホームステイ先、荒木家へ。お母さんの出迎えを受ける。

(d) セグメント10 お魚はちょっと — いっしょに作る — セグメント9の続き。料理をする一同。荒木家の娘、純子も学校から帰ってきて加わる。やがて、豪華な中華料理が完成。

(ユニット 2) 王は、無事に大学院に入学。山田の研究室にもしばしば訪ねてきている。

(e) セグメント13 お茶にします — アドバイス — 9月上旬の水曜日。王は、山田の研究室を訪れ、話している。国語学科の3年生が入ってきて、後期の授業のとり方について、山田のアドバイスを求める。

(f) セグメント16 よくわかりません — あきらめる — 9月中旬の日曜日。修士論文の執筆にかかっている朴は、ハングルの使えるワープロを探しに電器店へ。店員の勧める機種は朴の希望に合わない。結局ワープロでは無理なようだが、パソコンについての店員の説明は要領を得ず、朴は見切りをつけて立ち去る。

(ユニット 3) 王の大学院生活1年目は、終わりに近づいている。

(g) セグメント21 海の底 — ことばで表す — 王、朴、山田、小川の4人は、水族館を訪れ、あれこれと見て回る。

\* 場面(3)、小川のせりふ中の「カレイ」「タコ」「ウナギ」に合わせ、それぞれ生きた状態とカレイの切り身、タコぶつ、ウナギの蒲焼きの映像が画面下半に示される。

(h) セグメント29 私の原稿は — 行き違い — 3月中旬の金曜日夕刻。王は、教育学部の論文集に出す論文を見られるよう山田に頼む。自分も原稿を書かなければならない山田は、読み始めるのが翌週の火曜になると遠回しに断るが、火曜までに見てもらえるのだと思った王は、原稿を預けて行ってしまう。王の原稿の締切日は翌週水曜。火曜の夕方になってようやく行き

違いがわかり、二人は気まずい思いのまま別れる。

\*場面(2)、山田の研究室のドアに、行先の表示が出ている。内容は、「います」「授業中」「会議中」「すぐもどります」「しばらくもどりません」「帰宅」で、「帰宅」にマグネットが付けられている。

(ユニット 4) 王は大学院修士課程の2年目。朴は、修士課程を終え、博士課程の1年目に入っている。

(i) セグメント32 お通夜 — 気持ちを表す — 9月初めのある日。早朝、まだ眠っている王に、朴から電話がかかり、二人が指導を受けている内田助教授が突然亡くなったとの知らせ。通夜の焼香に訪れた山田は、手伝いを申し出、セグメント29で気まずい別れ方をして以来、久しぶりに王とことばを交わす。問題の王の原稿は、印刷の途中で内田先生が直してくださったとのこと。指導教官を失った朴は途方に暮れる。

(j) セグメント38 夢なんです — 希望を述べる — 9月下旬の木曜日。内田先生の葬儀から半月ほどたっている。大学へ来た山田は王に出会い、後ほど研究室へ来るよう誘う。

(k) セグメント39 決めました — 決意を述べる — セグメント38の後、夕刻。研究室で待っている山田に王から電話。大学近くのスナック‘エスポワール’へ行くと、朴と王がいる。朴は、新しい指導教官を求めてアメリカへ行くことにしたという。

\*場面(1)では、セグメント38の舞台となった並木道の映像に、王の電話の声が重なる。

---

## ストーリー III

# 仕 事

---

大学留学生のエレンたちが、アルバイト先の会社で経験するさまざまな場面を描く。改まった対人行動が要求される場面が中心となる。

{主な登場人物} エレン・ソウザ ブラジル人、大学留学生、アルバイトとして旅行社ヤングトラベルで働いている  
サイモン・マッコイ オーストラリア人、大学留学生、ヤングトラベルのアルバイト  
クラウディア・ロッシ イタリア人、大学留学生、ヤングトラベルのアルバイト  
谷山 治 男 ヤングトラベル企画課長  
池田 洋子 谷山の部下  
江口 徹 谷山の部下



(ユニット 1) サイモンとエレンは、大学留学生。旅行会社ヤングトラベルの企画課で長期アルバイトとして働いている。企画課の課長は谷山。その部下に池田、江口らがいる。

(a) セグメント 3 忙しい一日 — 指示する — 11月中旬の水曜日。始業時間にはまだ間がある。のんびりと出勤してきたサイモンだが、オフィスでは、課長以下一同が猛烈に工作中。急な仕事が入ったとのこと。さっそうと大量の作業を命じられてしまう。遅れてきた江口に仕事の報告を求めたり、作業の指示を出したりする谷山。午後4時すぎになって、ようやく作業は終わったが、ちょっとお茶を飲んで、まだまだ仕事は続くらしい。

(b) セグメント 5 この次は来月 — 約束する — 11月下旬の水曜日。谷山と池田は、ある県の観光旅館組合役員・伊原と用談。次回の約束をして送り出す。一人オフィスに残った江口は、ガールフレンドの桜井にこっそりと私用電話。エレンは、取引先との打ち合わせ日程を谷山に相談。電話をかけるが、相手は不在。留守番電話にメッセージを入れる。

※場面(2)は、主音声に江口の声、副音声に電話の相手の声が録音されている。

(ユニット 2) エレンは、ヤングトラベルでアルバイトを続けている。最近、クラウディアが仲間に加わった。

(c) セグメント 12 船に乗ってみますか — 案内する — 9月上旬のある日。池田は、日帰り旅行プランの下見のため、クラウディアを連れて‘東京ペイトピア’へ来ている。

(d) セグメント 15 実は…… — 報告する — 9月中旬の金曜日。ファックスが届き、予約してあった徳島のホテルから、予約金が期日までに支払われなかったのが、キャンセルとみなすとの連絡。担当の江口は、あわてて連絡をとるが、部屋はもう空いていない。おそろおそろ課長の谷山に報告。ホテルは、池田が見つけてくれた高松に変更となる。

(e) セグメント 17 それでOK! — 説明する — 9月中旬のある日の昼休み。エレンが一人オフィスに残って弁当を食べようとしていると、バス会社、浅野交通へ打ち合せに行っている江口から電話。ファックスで浅野交通に資料を送るように言われる。ファックスを使ったことがないエレンは、原稿のセットのしかたをまちがえてしまう。

※場面(1)の電話の場面では、主音声にエレンの声、副音声に江口の声が録音されている。

(ユニット 3) ヤングトラベルでアルバイトを続けるエレンとクラウド  
ディア。

(f) セグメント22 少々お待ちください — 応接 — 2月中旬のある日。  
今日は、池田が外出していて不在。社内総務課の社員は、明日出なおすと言  
って帰っていく。取引先サクラツアーズの山内には、江口がかわって応対。  
課長の谷山が不在の間に、行きつけの飲み屋のおかみから電話がかかる。

(g) セグメント27 ソトかうちか — 敬語 — 3月中旬のある日。昼休み  
が終わろうとするころ、企画課が所属する販売促進部の部長が突然やってき  
て、エレンに谷山課長の所在を尋ねる。自分と谷山と部長との関係がわから  
ず、だれにどう敬語を使うべきか迷うエレン。クラウドディアといっしょに、  
居合わせた池田に聞いたです。

※場面(2)の最後でエレンとクラウドディアが池田に尋ねている内容は、以下  
のようなもの。

エレン 部長は、目上だし、課長も目上ですよ。それから、お客さま  
も。お客さまは、部長より上ですか。課長より部長の方が上だから、  
やっぱり「まいっております」とか言うんですか。だけど、なんか変  
ですよ。

クラウドディア 私たちはこの課にいるから、課長はウチの人でしょう。  
お客さまはソトの人だから、いらっしやいましたですけど、部長はど  
っちなんですか。部長はソトで課長はウチなのか、私たちはアルバイ  
トだから、私たちがソトなんでしょうか。

(ユニット 4) ヤングトラベルでアルバイトを続けるエレンとクラウド  
ディア。

(h) セグメント33 いやだよなぁ — あいづち — ヤングトラベルでア  
ルバイトをしているエレンとクラウドディアが、仕事のことなどを話し合う。

---

## ストーリーIV

# 恋人

---

卒業・就職を控えた大学4年生の深沢と3年生の亜紀子との出会いから再  
会までを描く。主観的な内容の表現を中心に取り上げる。

{主な登場人物} 村井亜紀子 西北大学3年生

深沢良昭 板橋経済大学4年生、大学の民謡研究会に  
属し、歌手をめざすかたわら、就職活動中

宮田愛 板橋経済大学1年生、民謡研究会で深沢の  
後輩

(ユニット 2) 亜紀子は、西北大学3年生。板橋経済大学4年生の深沢と知り合い、付き合いはじめる。深沢は、大学の民謡研究会に入っていて、ひそかにプロの歌手をめざしているが、その一方で、卒業を前に就職活動中。北海道に本社のある広告会社・道南情報から内定をもらっている。

(a) セグメント11 川で ― 出会う ― 9月下旬の土曜日の朝。自転車で近くのコンビニエンスストアまで買い物に出た亜紀子は、通りかかった川原で「津軽山唄」の練習をする深沢を見かける。深沢は、この川原のボート乗り場でアルバイト中。夕方になって、川原へスケッチに出かけた亜紀子は、深沢と初めてことばを交わす。

\*このセグメントも、映像素材として利用できるように、川原でさまざまな活動をする人々の映像を含んでいる。

(b) セグメント18 就職 ― 様子をきく ― 10月中旬の金曜日の夕方。川での出会いの後、深沢と亜紀子は何度かデートを重ね、恋人として付き合っている。内定先の道南情報の東京支店に顔を出してきた深沢は、デートの約束をした亜紀子を待っている。やや遅れて亜紀子が現れ、レストランで食事。亜紀子は、民謡歌手をあきらめようとする深沢に少々不満。それに、北海道の会社に就職したら、二人の付き合いはどうなるのか。

\*このセグメントは、基本的に、深沢の視線でとらえた映像となっている。

(ユニット 3) 深沢は、大学を卒業して社会人に。就職先の本社は札幌だが、東京支店にいられるのか。深沢と亜紀子は不安な日々を過ごす。

(c) セグメント25 卒業コンサート [兼・映像素材(c)] 3月初めの金曜日夕刻。板橋経済大学民謡研究会は、卒業生の最後のステージとして演奏会を開く。深沢の演奏を聞くため駆けつける亜紀子。深沢の歌う「南部牛追唄」に聞き入る亜紀子の目に、雪解けから早春に向かう山野の風景が浮かぶ。映像素材として作られたセグメント。

\*場面(2)は、主音声に深沢の歌う「南部牛追唄」、副音声に映像に伴う実況音が録音されている。

(d) セグメント28 お祝いです — 贈り物 — 3月中旬のある日。深沢に卒業祝いを渡そうと、亜紀子は、民謡研究会の部室前で待っている。なんと行って渡そうか考える亜紀子の前に、突然、深沢の後輩の1年生、宮田が現れ、無遠慮に二人のことを尋ねる。やがて現れた深沢にプレゼントを渡す亜紀子。

(e) セグメント30 さよならですか — 伝える — 新学年に入った4月上旬のある日。深沢は道南情報に就職し、東京支店で研修中。亜紀子は、4年生に進級。深沢の退社時に待ち合わせた公園で、深沢は任地が札幌に決まったことを告げる。不安を隠せない亜紀子。数日後、任地に出発する深沢を、亜紀子は空港の片隅から見送る。

(ユニット 4) 深沢の北海道赴任以来、めったに会うこともできない深沢と亜紀子。

(f) セグメント34 すれ違い — 事情を話す — 9月中旬のある日。深沢の東京出張を利用してデートの約束をした二人。待ち合わせ場所は、ショッピングモールの1階だが、地下1階から吹き抜けの広場があり、一見、地下1階が1階に見える。深沢は地下1階で待ち、その上の1階で待つ亜紀子に気付かない。あきらめて帰ろうとする亜紀子を見かけた深沢は、後を追う。大声で呼ぶが、イヤホーンで激しい音楽を聞いている亜紀子の耳には届かない。亜紀子を追って道に飛び出した深沢は、車にはねられる。

\*このセグメント、主音声は映像に伴う実況音、副音声には、この場面の翌日の晩になって、深沢が入院先の病院から亜紀子にかけた電話の音声録音されている。場面(4)の途中からは、両チャンネルとも、亜紀子のウォーキングステレオから流れる音楽。

(g) セグメント37 まだ痛いですか — お見舞い — セグメント34の事故の翌々日。けがをした深沢は、入院中。大学の民謡研究会の友達から聞きつけた宮田が見舞いに来る。続いて、昨夜、深沢からの電話でようやく事情を知った亜紀子もやってくる。

(h) セグメント40 これからも…… — 退院 — 9月下旬。事故から2週間ほどたって、深沢の退院の日。車で迎えに来た亜紀子は、東京と北海道に離れても信じていると、気持ちを告げる。



---

# 映 像 素 材

---

(ユニット1) (a) セグメント 7 私の町 12月中旬の雨が降る寒い日。「僕」は、1週間ほど家をあけ遊び歩いていたが、今日は、帰ってくるお母さんを駅で待ち受け、こっそり後をつけることにした。「僕」を探しながら家へ向かうお母さん。玄関の前まで来たところで、ニャーとひと声。

\*このセグメントは、基本的に、「僕」の視線からの映像。お母さんは、ストーリーⅡに登場する王のホームステイ先の主婦・荒木智恵子で、「僕」は荒木家の飼い猫。音声は、主音声映像に伴う実況音、副音声は「僕」のひとりごと。

(ユニット2) (b) セグメント20 花火 9月中旬のある夜。バイクで旅行中の青年は、道に迷い、一軒の寺に泊めてもらう。その夜、女の子が現れ、二人は花火をする。翌朝、寺の仏壇を見ると、そこに昨夜の女の子の写真。

※このセグメントの音声は、主音声映像に伴う実況音、副音声は青年の独白。

(ユニット3) (c) セグメント25 卒業コンサート [兼・Ⅳ 恋人(c)] ストーリーⅣ 恋人 の一場面。3月はじめの金曜日夕刻。板橋経済大学民謡研究会卒業演奏会。深沢の歌う「南部牛追唄」に聞き入る亜紀子の目に浮かぶ早春の山野の風景。

\*「ストーリーⅣ 恋人(c)」を参照。

(ユニット4) (d) セグメント35 子供部屋 ストーリーⅢに登場する池田洋子の家。夜8時すぎ。もう寝なければならないのに、男の子は、マンガを読んで起きている。セグメント20に登場した女の子の幽霊が現れ、男の子に気づいてもらおうと、いろいろないたずらをする。

---

# 学習者用シナリオ

---

※以下に掲載する「学習者用シナリオ」は，学習者が直接使用することを想定して，次のような基準で作成されている。

㊦ 登場人物の説明は，そのセグメントの内容を理解するために必要な最小限にとどめた。また，場面状況の説明も，必要最小限にとどめた。

㊦ ト書は，最小限必要なものを除き，削除した。なお，詳しいト書は，販売されているビデオテープに同梱の「利用の手引き」を参照のこと。

㊦ せりふの表記に用いる漢字には，すべてふりがなを付した。使用する漢字については，「日本語能力試験」3級漢字表に含まれる文字をまったく含まない語は，原則としてかなで表記することとした。ただし，かな表記とすることによって強い違和感が生じられるものは，漢字を用いて表記した。

㊦ ユニットおよびセグメントのタイトル，人物説明，場面説明等については，使用する漢字を制限せず，ふりがなを付した。

㊦ せりふに含まれる文には，文番号を付した。文番号は，セグメントごとの通し番号とした。

---

セグメント 1 <sup>ち こく</sup>遅刻 — <sup>たず</sup>尋ねる — (ストーリー I 「勉強」 (a))

---

登場人物 <sup>とうじょう じんぶつ</sup>張玉萍 <sup>ちようぎよくへい</sup>(<sup>ちゅうごくじん</sup>中国人, <sup>にほんごがっこうがくせい</sup>日本語学校学生)

おばさん <sup>しゃしょう</sup>車掌 (アナウンス) <sup>じようきやく</sup>乗客  
<sup>ごとうのりこ</sup>後藤紀子 (<sup>にほんごがっこうきょうし</sup>日本語学校教師) <sup>がくせい</sup>学生たち

---

場面(1) <sup>あさ</sup>朝。 <sup>えき</sup>駅へ <sup>みち</sup>の道。

おばさん -001 すみません。 -002 あかまつしょうはどこですか。

張 -003 あかまつしょう, ですか。

おばさん -004 ええ, ええ。

張 -005 さあ。

おばさん -006 このへんなんですけどねえ。

張 -007 あ, <sup>しょうがっこう</sup>小学校ですか。

おばさん -008 ええ, ええ, <sup>あかまつしょう</sup>赤松小。

張 -009 ああ, それじゃあ, あのかどを<sup>みぎ</sup>右にまがって, ……

おばさん -010 あのごみのところですか。

張 -011 はい, そうです。 -012 <sup>すこ</sup>少し行<sup>い</sup>って, <sup>ひだり</sup>左がわにあります。

おばさん -013 はい。 -014 ありがとうございます。

---

場面(2) <sup>えき</sup>駅。

---

場面(3) 電車でんしゃの中なか。

アナウンス -015 毎度まいどご利用りようくださいまして、ありがとうございます。  
-016 この電車でんしゃは、特急橋本とっきゅうはしもとゆきです。-017 つぎは、京王多摩けいおう たま  
センターとに止まります。-018 京王多摩センターけいおう たまのつぎは、終点橋本しゅうてんはし  
本もとです。

張 -019 あのう……，

乗客 -020 はい？

張 -021 つぎは、どこに止まりますか。

乗客 -022 ああ、つぎですか。-023 ええ、多摩た まセンターでしょう。

張 -024 たません……。

乗客 -025 京王多摩けいおう た まセンターです。

張 -026 府中ふちゅうは、止まりませんか。

乗客 -027 あ、府中ふ ちゅうは方向ほうこうがちがいますよ。-028 ええと、調布ちょうふでの  
りかえですね。

張 -029 調布ちょうふですね。-030 どうもありがとうございました。

---

場面(4) 日本語学校にほんごがっこうの教室きょうしつ。

張 -031 すみません……。

後藤 -032 張さんちょう、どうしたんですか。

張 -033 あのう、電車でんしゃをまちがえて……。

後藤 -034 ああ、そうですか。-035 それはたいへんでしたね。

---

セグメント 2 <sup>あた</sup>ら <sup>ともだち</sup>新しい友達 — <sup>れい い</sup>お礼を言う —

---

(ストーリーⅡ「友達」(a))

---

<sup>とうじょう</sup> <sup>じんぶつ</sup>登場人物 <sup>おう</sup> <sup>すうりょう</sup>王 <sup>ちゅうごくじん</sup>崇梁 (中国人, <sup>なんかいだいがくけんきゅうせい</sup>南海大学研究生)

<sup>やまだ</sup> <sup>やすひろ</sup>山田康浩 (<sup>なんかいだいがくじょしゅ</sup>南海大学助手) <sup>うんてんしゅ</sup>バスの運転手

---

場面(1) <sup>の</sup> <sup>ば</sup>バス乗り場。

王 -001 あのう、……。

山田 -002 はい。

王 -003 すいません、このバスは<sup>なんかいだいがく</sup>南海大学<sup>い</sup>へ行きますか。

山田 -004 あ、た、よんに<sup>い</sup>いというのが行きます。

王 -005 た、ですか。

山田 -006 あ、あの、<sup>おお</sup>多い<sup>じ</sup>という字です。

王 -007 あ、<sup>た よんにい</sup>多42<sup>い</sup>ですか。 -008 どうもありがとうございます。

---



場面(2) バスの<sup>なか</sup>中。

王 -009 あのう、すいません、おつり、ありますか。

運転手 -010 ないですね。-011 こまかいのありませんか。

王 -012 はあ、これしかないんですけど。

運転手 -013 どなたか、1万円<sup>いちまんえん</sup>、こまかくしていただけませんか。

山田 -014 あのう、これ、よかったらどうぞ。

王 -015 えっ、でも……。

山田 -016 いえ、いいですから。-017 どうぞ。

王 -018 そうですか。-019 じゃあ。-020 ありがとうございます。

山田 -021 いいえ。

---

王 -022 どうもありがとうございました。-023 たすかりました。

山田 -024 いいえ、いいですよ。

王 -025 あのう、いつもこのバスですか。

山田 -026 ええ、まあ。

王 -027 あ、そうですか。-028 じゃ、今度<sup>こんど</sup>、お金<sup>かね</sup>を……。

山田 -029 いいですよ、もう。-030 気<sup>き</sup>にしないでください。

王 -031 でも、そんな……。

---

山田 -032 あのう、<sup>なんかいだいがく</sup>南海大学<sup>かた</sup>の方ですか。

王 -033 ええ、<sup>こんげつ</sup>今月<sup>けんきゅうせい</sup>から研究生になりました。

山田 -034 そうですか。-035 わたしも、<sup>なんかい</sup>南海<sup>じょしゅ</sup>で助手をしてるんですよ。

王 -036 えっ、そうですか。

山田 -037 ええ。-038 <sup>こくごがっか</sup>国語学科<sup>やま</sup>の山田<sup>だ</sup>と言います。

王 -039 <sup>こくご</sup>国語ですか。-040 わたくし、<sup>きょういくぎょうせい</sup>教育行政<sup>おう</sup>の王<sup>もう</sup>と申します。

山田 -041 じゃ、<sup>たてももの</sup>となりの建物だ。-042 <sup>こんど</sup>今度<sup>き</sup>、あそびに来てくださ  
いよ。

王 -043 はい、ぜひ。-044 <sup>だい</sup>バス代<sup>も</sup>を持って。

山田 -045 あ、いや、それはもういいですよ。-046 しつれいですが、<sup>くに</sup>お国<sup>は</sup>は？

王 -047 <sup>ちゅうごく</sup>中国<sup>です</sup>。

山田 -048 そうですか。-049 <sup>けんきゅうせい</sup>研究生<sup>ですか</sup>。-050 <sup>らいねん</sup>来年<sup>だいがくいん</sup>は、大学院  
をうけるんですか。

王 -051 はい、そのつもりです。

山田 -052 <sup>きょういくぎょうせい</sup>教育行政<sup>って</sup>、どんなことするんですか。

---

セグメント 3 <sup>いそが</sup>忙しい一日 — <sup>し じ</sup>指示する —

---

(ストーリーⅢ「仕事」(a))

---

<sup>とうじょう</sup>登場人物 <sup>じんぶつ</sup> <sup>たにやまはる お</sup>谷山治男 (ヤングトラベル企画課長)

サイモン・マッコイ (オーストラリア人, アルバイト)

エレン・ソウザ (ブラジル人, アルバイト)

<sup>いけだ ようこ</sup>池田洋子 (谷山の部下)

<sup>えぐち とおる</sup>江口 徹 (谷山の部下)

---

場面(1) <sup>あさ</sup>朝8時40分ごろ。ヤングトラベル企画課オフィス。

サイモン -001 おはようございます。

<sup>いちどう</sup>一同 -002 おはようございます。

谷山 -003 ああ、サイモンくん。

サイモン -004 おはようございます。

谷山 -005 おはよう。-006 ええと、<sup>いけ だ</sup>池田さん、それはね、サイモン  
<sup>くん</sup>君にたのんで。-007 で、<sup>いけ だ</sup>池田さんはDMのリストを<sup>でいーえむ</sup>しらべてよ。

池田 -008 はい。-009 じゃ、サイモンさん。

サイモン -010 はい。

池田 -011 このパンフレット、<sup>いそ</sup>急いで<sup>おく</sup>送ることになったんですよ。

サイモン -012 はい。

池田 -013 まず、ここにこのスタンプをおしてください。

サイモン -014 はい。-015 これ、どのくらいあるんですか。

池田 -016 ええと、700部<sup>ぶ</sup>だったかなあ。-017 がんばってね。

サイモン -018 はあい。

---



場面(2) 10時<sup>じ</sup>9分<sup>ふん</sup>すぎ。

江口 -019 おはようございまーす。

谷山 -020 江口<sup>えぐち</sup>くん。

江口 -021 あ、はい。

谷山 -022 チラシ<sup>げんこう</sup>の原稿、どうなった？

江口 -023 いちおうもう、できてます。

谷山 -024 できたものは、すぐ<sup>み</sup>に見せる。

江口 -025 すいません。-026 こんなかんじですけど。-027 あと、こ  
こに<sup>しゃしん</sup>写真<sup>はい</sup>が入ります。

谷山 -028 ふうん。 -029 写真<sup>しゃしん</sup>は？

江口 -030 今日<sup>きょう</sup>、とどきます。

谷山 -031 うん。 -032 ごくろうさん。

---

場面(3) 午後1時<sup>じ</sup>37分<sup>ふん</sup>。

谷山 -033 さてと、それは、もうできた？

サイモン -034 はい、できました。

池田 -035 エレンさん、

エレン -036 はい。

池田 -037 段<sup>だん</sup>ボールはどこですか。

エレン -038 はい、あそこです。

池田 -039 ああ、じゃあ、そこに持<sup>も</sup>ってきてください。

エレン -040 はい。

---

谷山 -041 封筒<sup>ふうとう</sup>は？

池田 -042 ええと、ここです。

谷山 -043 ラベルは できてるの？

池田 -044 はい、チェックしました。

谷山 -045 よし。-046 じゃあ、封筒<sup>ふうとう</sup>に入れて、ラベルをはって。

池田 -047 はい。

---

場面(4) 午後<sup>ごご</sup>4時<sup>じ</sup>24分<sup>ぶん</sup>。

江口 -048 ただいま帰<sup>かえ</sup>りました。

谷山 -049 あ、ごくろうさま。-050 ああ、チラシ<sup>しゃしん</sup>の写<sup>き</sup>真、来<sup>き</sup>てるから、原稿<sup>げんこう</sup>といっしょに送<sup>おく</sup>って。

江口 -051 はい。-052 ええと、どこですか。

谷山 -053 そこのつくえ<sup>うえ</sup>の上<sup>ふうとう</sup>の封筒。

江口 -054 これですか。

谷山 -055 ちがうちがう。-056 そのむこう。

江口 -057 これですね。-058 え、これ、ちがいますよ。

谷山 -059 え、おかしいな。

江口 -060 あ、これかな。-061 ああ、ありました。

谷山 -062 あ、じゃ、よろしく。

池田 -063 課長<sup>かちょう</sup>、お<sup>お</sup>終わりました。

谷山 -064 ああ、わりに早<sup>はや</sup>かったな。-065 みんな、ごくろうさま。

-066 ちょっと、お茶<sup>ちや</sup>にしようか。-067 ごくろうさま。

---

セグメント 4 <sup>にほん</sup>日本ははじめてです — <sup>しょうかい</sup>紹介する —

---

(ストーリー I 「勉強」 (b))

---

とうじょう じんぶつ ちょうぎよくへい ちゅうごくじん にほんごがっこうがくせい  
登場人物 張玉萍 (中国人, 日本語学校学生)

ごとうのりこ にほんごがっこうきょうし がくせい  
後藤紀子 (日本語学校教師) 学生たち

クレイグ・ホーン (アメリカ人, <sup>じん あたら がくせい</sup>新しい学生)

---

場面(1) <sup>にほんごがっこう きょうしつ</sup>日本語学校の教室。

後藤 -001 おはようございます。

学生たち -002 おはようございます。

後藤 -003 みなさん, <sup>しょうかい</sup>紹介します。 -004 こちらは, クレイグ・ホー  
ンさんです。 -005 今日からいっしょに<sup>きょう</sup>勉強<sup>べんきょう</sup>します。 -006 それじ  
や, <sup>じこしょうかい</sup>自己紹介してください。

クレイグ -007 はい。 -008 はじめまして。 -009 クレイグ・ホーンで  
す。 -010 アメリカのサンディエゴ <sup>き</sup>から来ました。 -011 どうぞ  
よろしくおねがいします。

学生A -012 あのう。

後藤 -013 はい。

学生A -014 クレイグさんは、いつ日本<sup>にほん</sup>に来<sup>き</sup>ましたか。

クレイグ -015 ええと、先月<sup>せんげつ</sup>の、はじめ？

学生A -016 先月<sup>せんげつ</sup>のはじめですか？

クレイグ -017 はい、そうです。-018 先月<sup>せんげつ</sup>の三日<sup>みっか</sup>に来<sup>き</sup>ました。

学生B -019 今<sup>いま</sup>まで、どこで日本語<sup>にほんご</sup>を勉強<sup>べんきょう</sup>していましたか。

クレイグ -020 どこで？ -021 ええ、サンディエゴ<sup>にほんごがっこう</sup>の日本語学校<sup>べん</sup>で勉強<sup>きょう</sup>していました。

張 -022 日本<sup>にほん</sup>は、はじめてですか？

クレイグ -023 はい、はじめてです。

張 -024 なぜ日本<sup>にほん</sup>へ来<sup>き</sup>たのですか。

クレイグ -025 あのう、日本<sup>にほん</sup>の大学<sup>だいがく</sup>に入<sup>はい</sup>りたいです。-026 入<sup>はい</sup>りたいからです。

後藤 -027 それじゃ、クレイグさん、わからないことは、みなさんにきいてくださいね。 -028 みなさんも、よろしく。

クレイグ -029 よろしくおねがいします。

学生たち -030 よろしくおねがいします。

---

場面(2) <sup>じゅぎょうちゅう</sup>授業中。

張 -031 パチャリーさん、だいじょうぶ？

パチャリー -032 はい。

張 -033 <sup>せんせい</sup>先生に言<sup>い</sup>いましょうか。

パチャリー -034 いいえ、だいじょうぶです。

張 -035 <sup>せんせい</sup>先生、パチャリーさんは病<sup>びょう</sup>気<sup>き</sup>だと思<sup>おも</sup>います。 -036 ねつ<sup>お</sup>が  
あります。

後藤 -037 パチャリーさん、かお<sup>あか</sup>が赤<sup>あか</sup>いわね。 -038 どうしたんです  
か。

パチャリー -039 <sup>すこ</sup>少し<sup>からだ</sup>体<sup>からだ</sup>があついです。

後藤 -040 ほんとう。 -041 ねつがあるわ。 -042 <sup>いむしつ</sup>医務<sup>い</sup>室<sup>むしつ</sup>へ行<sup>い</sup>ったほう  
がいいですね。

張 -043 <sup>せんせい</sup>先生、わたしが。

後藤 -044 え、じゃ、<sup>ちょう</sup>張<sup>ちょう</sup>さん、いっしょ<sup>い</sup>に行<sup>い</sup>ってください。



---

セグメント 5 この次は来月 — 約束する —

---

(ストーリーⅢ「仕事」(b))

---

登場人物 谷山治男 (ヤングトラベル企画課長)  
池田洋子 (谷山の部下) 江口 徹 (谷山の部下)  
エレン・ソウザ (ブラジル人, アルバイト)  
伊原 聡 (ヤングトラベルの客)  
桜井美香 [声] (東光銀行社員)  
金 [声] (韓国人, 旅行社ATA社員)

---

場面(1) ヤングトラベルの応接室。

谷山 -001 ……あ、そうですか。-002 楽しみですね。…… -003 このつぎは、いつ東京へ。

伊原 -004 ええと、来月です。

谷山 -005 あ、では、その時にくわしいお話を。

伊原 -006 はい。-007 ええと、五日はいかがですか。

谷山 -008 あ、もうしわけありません。-009 一日からハワイへ出張で、五日に帰ってきますので、六日の木曜日はいかがですか。

伊原 -010 うーん、その日は、午後の新幹線で帰りたいんですが、午前中でいいですか。

谷山 -011 はい、では、10時ごろ。

伊原 -012 わかりました。-013 六日の10時ですね。

谷山 -014 はい。-015 では、またその時に。

伊原 -016 どうも、おいそがしいところを。

谷山 -017 いえいえ。-018 ありがとうございます。

池田 -019 しつれいいたしました。

伊原 -020 それじゃ。

---

場面(2) ヤングトラベルのオフィス。

女性 -021 はい、<sup>とうこうぎんこうかわせぶ</sup>東光銀行為替部でございます。

江口 -022 あ、ええ、ヤングトラベルの<sup>えぐち</sup>江口ともうしますが、

女性の声 -023 お<sup>せ</sup>世<sup>わ</sup>話になっております。

江口 -024 ああ、どうも。-025 <sup>さくらい</sup>桜井さんをおねがいします。

女性の声 -026 はい、<sup>しょうしょう ま</sup>少々お待ちください。

---

桜井 -027 もしもし、<sup>さくらい</sup>桜井ですが。

江口 -028 <sup>み か</sup>美香さん？ -029 ぼく。

桜井 -030 あら、どうしたの。

江口 -031 うん、<sup>こん や</sup>今夜さあ、どう？

桜井 -032 こんやあ？ -033 うーん。

江口 -034 この<sup>まえ い</sup>前<sup>みせ</sup>言<sup>い</sup>ってた店さあ、行ってみようよ。

桜井 -035 ああ、あの<sup>りょうり</sup>インド料理？

江口 -036 はい。-037 <sup>じ しんじゅく</sup>6時に新宿でいかがでしょうか。

桜井 -038 やだあ、だれか<sup>き</sup>来たの？

江口 -039 はあ。

桜井 -040 6時<sup>じ</sup>ね。-041 うん、いいよ。-042 どこで？

江口 -043 ええ、南口<sup>みなみぐち</sup>の、ええ、改札口<sup>かいさつぐち</sup>ではいかがでしょうか。

桜井 -044 南口<sup>みなみぐち</sup>のお、改札口<sup>かいさつぐち</sup>ね。-045 ……もしもし？

江口 -046 やれやれ。-047 もうだいじょうぶ。

桜井 -048 じゃ、あとでね。

江口 -049 うん。-050 じゃあね。

---

場面(3) ヤングトラベルのオフィス。

エレン -051 あのう、ATAのキムさんとのうちあわせですが。

谷山 -052 ああ、早<sup>はや</sup>くした方<sup>ほう</sup>がいいね。

エレン -053 課長<sup>かちょう</sup>、今週<sup>こんしゅう</sup>は。

谷山 -054 ええっと、ちょっとむりだなあ。-055 来週<sup>らいしゅう</sup>は、水曜日<sup>すいようび</sup>以外<sup>がい</sup>はだいじょうぶ。

エレン -056 わかりました。-057 むこうのつごうをきいてみます。

---

金<sup>るすばんでんわ</sup> (留守番電話) -058 はい、ATAでございます。-059 ただいま  
すにしております。-060 ピーという音<sup>おと</sup>の後<sup>あと</sup>にメッセージをお入れ  
ください。

エレン -061 ヤングトラベルのエレンです。-062 うちあわせの件<sup>けん</sup>で  
お電話<sup>でんわ</sup>しました。-063 こちらは、できれば来週<sup>らいしゅう</sup>、……



---

セグメント 6 ぼくがおごります — <sup>した</sup>親しくなる —

(ストーリーⅡ「友達」(b))

---

とうじょう じんぶつ おう すうりょう ちゅうごくじん だいがくけんきゅうせい  
登場人物 王 崇梁 (中国人, 大学研究生)

やまだ やすひろ だいがくじょしゅ  
山田康浩 (大学助手)

おがわ あけみ やま だ  
小川明美 (山田のガールフレンド)

や てんいん  
てんぷら屋店員

---

場面(1) てんぷら<sup>や</sup>屋。

店員 -001 いらっしゃいませ。

山田 -002 あ, こっち, こっち。

小川 -003 おそくなりました。 -004 <sup>ま</sup>待った?

山田 -005 <sup>しょうかい</sup>紹介します。 -006 <sup>おがわ あけみ</sup>こちらが小川明美さん。 -007 <sup>おおのちゅうおう</sup>大野中央  
<sup>びょういん</sup>病院につとめています。

王 -008 はじめまして。 -009 <sup>いしや</sup>お医者さんですか?

小川 -010 いえ, <sup>かんごふ</sup>看護婦です。

店員 -011 いらっしゃいませ。

山田 -012 ビールでいい?

小川 -013 ええ。

山田 -014 じゃ, ビール, もう<sup>ほん</sup>2本。

店員 -015 かしこまりました。

小川 -016 もう、たのんだの？

山田 -017 いや、まだ。-018 定食<sup>ていしょく</sup>がいいかな。

小川 -019 そうね。

王 -020 でも、高<sup>たか</sup>いですね。

山田 -021 だいじょうぶですよ。-022 今日<sup>きょう</sup>はね、ぼくがおごります。

小川 -023 あら、いいのお？

山田 -024 うん。-025 ボーナス<sup>で</sup>が出たんですよ。-026 今日<sup>きょう</sup>は金持<sup>かねも</sup>ちですから。

小川 -027 じゃあ、ごちそうになりましょ。

王 -028 でも、悪<sup>わる</sup>いですねえ。

山田 -029 じゃ、みんな松<sup>まつ</sup>にしましょう。

王 -030 えっ、まつですか。

小川 -031 定食<sup>ていしょく</sup>は、松<sup>まつ</sup>、竹<sup>たけ</sup>、梅<sup>うめ</sup>の3種類<sup>しゅるい</sup>で、松<sup>まつ</sup>がいちばん高<sup>たか</sup>いんですよ。

王 -032 じゃあ、わたしは梅<sup>うめ</sup>にします。

山田 -033 そんな、えんりよしないで。-034 松<sup>まつ</sup>、3人前<sup>にんまえ</sup>、おねがいします。

店員 -035 かしこまりました。

---

場面(2) てんぷら<sup>た</sup>を食べる。

山田 -036 これは<sup>なが</sup>長い。

王 -037 おいしいですね。

小川 -038 王<sup>おう</sup>さんは、やはり中国料理<sup>ちゅうごくりょうり</sup>がいちばんすきですか。

王 -039 そうですね。

小川 -040 日本料理<sup>にほんりょうり</sup>と西洋料理<sup>せいりょうり</sup>と、どちらが好きですか。

王 -041 それはもちろん日本料理<sup>にほんりょうり</sup>がすき、と言<sup>い</sup>った方<sup>ほう</sup>がいいです  
ね。

---

場面(3) てんぷら<sup>や</sup>屋<sup>まえ</sup>の前。

王 -042 ごちそうさまでした。

山田 -043 どういたしまして。

小川 -044 このつぎは中華料理<sup>ちゅうかりょうり</sup>、食<sup>た</sup>べに行<sup>い</sup>きましょうよ。

山田 -045 ああ、いいね。

王 -046 そうだ、わたしが作<sup>つく</sup>りますから、食<sup>た</sup>べに來<sup>き</sup>てください。

小川 -047 え、中華料理<sup>ちゅうかりょうり</sup>を？

山田 -048 それはいい。-049 ぜひごちそうしてくださいよ。

王 -050 今<sup>こん</sup>度<sup>ど</sup>、連<sup>れん</sup>絡<sup>らく</sup>します。

山田 -051 うん、樂<sup>たの</sup>しみにしてます。

小川 -052 じゃ、また。

王 -053 はい、また大<sup>だい</sup>学<sup>がく</sup>で。

小川 -054 とっても樂<sup>たの</sup>しかったわ。-055 おやすみなさい。

---

セグメント 7 <sup>わたし まち</sup> 私の町

---

(映像素材(a))

<sup>とうじょう じんぶつ</sup> 登場人物 <sup>あら き ち え こ</sup> 荒木智恵子 (主婦) ? [ナレーション]

---

場面(1) <sup>えき まえ</sup> 駅の前。

ナレーション -001 <sup>かあ</sup> お母さんが<sup>かえ</sup>帰ってきました。 -002 まだ、<sup>あめ</sup>雨がふっています。

---

場面(2) <sup>にく や まえ</sup> 肉屋の前。

ナレーション -003 <sup>き</sup> 来た、<sup>き</sup> 来た。 -004 <sup>にく や か もの</sup> 肉屋で買い物をします。 -005 <sup>にく か</sup> ひき肉を買いました。

---

場面(3) <sup>はな や まえ</sup> 花屋の前。

ナレーション -006 <sup>はな</sup> きれいな花がたくさんあります。 -007 <sup>はな か</sup> 花は買いません。

---

場面(4) <sup>まへ</sup> コンビニエンスストアの前。

ナレーション -008 <sup>みせ</sup> この店はいつも開いています。 -009 とてもべん<sup>みせ</sup> りな店です。 -010 <sup>ぎゅうにゅう か</sup> 牛乳を買います。 -011 <sup>ぎゅうにゅう だい</sup> ぼくは、牛乳が大すきです。

---

場面(5) <sup>しょうてんがい</sup> 商店街。

ナレーション -012 <sup>いそ</sup> 急ぎます。 -013 <sup>や</sup> そば屋があります。 -014 <sup>くすり</sup> くすりはいつもこのくすり<sup>や か</sup>屋で買います。

---

場面(6) <sup>こうえん</sup>公園。

ナレーション -015 つかれました。 -016 <sup>こ</sup>子どもはきらいではありません  
せんけど、<sup>きょう</sup>今日はあそびません。

---

場面(7) <sup>こうえん</sup>公園<sup>そと</sup>の外。

ナレーション -017 <sup>はや</sup>早く<sup>かえ</sup>帰りましょう。 -018 <sup>あめ</sup>雨はやみました。 -019  
でも、<sup>きょう</sup>今日はさむいです。

---

場面(8) <sup>ちゅうしゃじょう</sup>駐車場。

ナレーション -020 さがしています。 -021 そこにはいません。

---

場面(9) <sup>げんかん</sup>玄関<sup>まえ</sup>の前。

ナレーション -022 ここがぼくのうちです。 -023 <sup>かえ</sup>お帰りなさい。

荒木 -024 まあ、お<sup>かえ</sup>帰り。 -025 どこへ行ってたの、<sup>しゅうかん</sup>1週間も。 -026  
<sup>しんぱい</sup>心配してたのよ。

ナレーション -027 あたたかい！

---

セグメント 8 <sup>ま あ</sup>待ち合わせ — おしゃべり —

(ストーリー I 「勉強」 (c))

---

とうじょう じんぶつ ちょうぎよくへい ちゅうごくじん にほんごがっこうがくせい  
登場人物 張 玉萍 (中国人, 日本語学校学生)

ただよしこ ちょう ほしょうにん むすめ  
武田芳子 (張の保証人の娘)

---

場面(1) <sup>きっさてん</sup>喫茶店。

張 -001 あっ, ごめんなさい。-002 <sup>ま</sup>待ちましたか。

芳子 -003 いいえ, わたしも<sup>いま き</sup>今来たところですから。-004 すぐにわ  
かりました?

張 -005 ええ。

ウェイトレス -006 いらっしゃいませ。

張 -007 ええと, ミルクティー。-008 <sup>てがみ</sup>手紙ですか。

芳子 -009 ええ, <sup>だいがく</sup>大学の<sup>ともだち</sup>友達がね, <sup>りゅうがく</sup>イギリスに留学してるんですよ。

張 -010 へえ, いいですねえ。-011 <sup>よしこ</sup>芳子さん, あそびに<sup>い</sup>行きたい  
でしょう。

芳子 -012 ええ, <sup>い</sup>行くつもりです。-013 でも, <sup>はる</sup>春になってからね。

張 -014 あ, <sup>ふゆ</sup>冬はさむいでしょうね。

ウェイトレス -015 <sup>ま</sup>お待たせしました。

---

場面(2) <sup>こうさてん</sup>交差点。

芳子 -016 <sup>ちょう</sup>張さん、<sup>しょうがつ</sup>お正月はどうします？

張 -017 ああ、<sup>なに</sup>何も<sup>よてい</sup>予定はありません。-018 <sup>よしこ</sup>芳子さんは？

芳子 -019 わたしは、<sup>おお</sup>大みそかから<sup>とう</sup>バリ島へ<sup>い</sup>およぎに行くんです。

張 -020 わあ、いいですねえ。-021 <sup>ともだち</sup>お友達と？ -022 ふうん。

-023 <sup>くるま</sup>……<sup>き</sup>車、来ませんね。

芳子 -024 ああ、わたっちゃいましょうか。

張 -025 こういうとき、<sup>にほんじん</sup>日本人はわたりませんね。

芳子 -026 <sup>がんとん</sup>元旦には、<sup>く</sup>うちへあいさつに来るでしょう？

張 -027 ええ、<sup>ほしょうにん</sup>保証人にはごあいさつしなくちゃ。

芳子 -028 わたしはインドネシアですから、<sup>ちち</sup>父と<sup>はは</sup>母をよろしくね。

張 -029 じゃ、<sup>よしこ</sup>芳子さんのかわりに、<sup>あ</sup>明けておめでとうございまーす。



---

セグメント 9 プチトマト！ — 買い物 —

(ストーリーⅡ「友達」(c))

---

とうじょう じんぶつ おう すうりょう だいがくけんきゅうせい  
登場人物 王 崇梁 (中国人, 大学研究生)  
やまだ やすひろ だいがくじょしゅ  
山田康浩 (大学助手)  
おがわ あけみ やま だ  
小川明美 (山田のガールフレンド)  
ハク ヘファン かんこくじん だいがくいんせい おう せんばい  
朴 海煥 (韓国人, 大学院生, 王の先輩)  
あら きち え こ おう さき しゅふ  
荒木智恵子 (王のホームステイ先の主婦)  
や お や しゅじん がかり  
八百屋の主人 スーパーのレジ係

---

場面(1) 商店街。<sup>しょうてんがい</sup>

王 -001 あの、このくらいの小さいトマト、なんと言いますか。

小川 -002 ああ、プチトマトのことですか。

王 -003 あ、プチトマト。

山田 -004 たまごやピーフンはスーパーでいいですね。

王 -005 ええ。 -006 先に八百屋へ行きましょう。<sup>さき や お や い</sup>

場面(2) 八百屋。<sup>や お や</sup>

八百屋 -007 はい、ネギにピーマンにチンゲンサイね。

小川 -008 それから、ニンジンと、ええと、あ、プチトマト、あります？

八百屋 -009 あ、今日はもう……。 -010 すいません。<sup>きょう</sup>

小川 -011 じゃ、おいくらですか。



山田 -012 あ、いたいた。

八百屋 -013 えー、1250<sup>えん</sup>円です。

---

場面(3) スーパー。

王 (声) -014 たら、たまご<sup>こえ</sup>、小麦粉<sup>こむぎこ</sup>、ビーフン<sup>にく</sup>、とり肉、レタス、  
プチトマト。

---

王 -015 とり肉<sup>にく</sup>、たら、小麦粉<sup>こむぎこ</sup>、……。 -016 だいじょうぶです  
ね。

朴 -017 何か<sup>なに</sup>わすれた物<sup>もの</sup>はない？

王 -018 うん、これでぜんぶ。

レジ係 -019 4397<sup>えん</sup>円になります。

王 -020 あ、7<sup>えん</sup>円あります。

レジ係 -021 はい、610<sup>えん</sup>円のおかえしになります。 -022 ありがとう  
ございました。

---

場面(4) 荒木家<sup>あらきけ</sup>の前<sup>まえ</sup>。

王 -023 えと、お母<sup>かあ</sup>さんです。

荒木 -024 荒木<sup>あらき</sup>です。

山田 -025 はじめまして、山田<sup>やまだ</sup>ともうします。

荒木 -026 あ、王<sup>おう</sup>さんがいつもお世話<sup>せわ</sup>になりまして。

王 -027 こちら、小川<sup>おがわ</sup>さんです。

小川 -028 小川<sup>おがわ</sup>ともうします。

荒木 -029 よろしくおねがいします。

朴 -030 こんにちは。-031 おじゃまします。

荒木 -032 おひさしぶり。-033 さあさあ、どうぞ。

山田 -034 あのう、つまらない<sup>もの</sup>物ですが。

荒木 -035 まあ、そんなこと、よろしいのに。…… -036 じゃあ、いただきます。 -037 ありがとうございます。 -038 さ、どうぞ。



---

セグメント 10 お魚はちょっと — いっしょにつく —

(ストーリーⅡ「友達」(d))

---

とうじょう じんぶつ    おう すうりょう    ちゅうごくじん    だいがくけんきゅうせい  
登場人物    王 崇梁 (中国人, 大学研究生)  
やまだ やすひろ    だいがくじょしゅ  
山田康浩 (大学助手)  
おがわあけみ    やまだ  
小川明美 (山田のガールフレンド)  
バク ヘファン    かんこくじん    だいがくいんせい    おう    せんばい  
朴 海煥 (韓国人, 大学院生, 王の先輩)  
あら きちえ こ    おう    さき しゅふ  
荒木智恵子 (王のホームステイ先の主婦)  
あら きじゅんこ    しょうがく    ねんせい    あら きちえ こ    むすめ  
荒木純子 (小学5年生, 荒木智恵子の娘)

---

場面(1)    あら き    け    だいどころ  
荒木家の台所。

王    -001    ビーフンはね, お湯に入れて。

朴    -002    ええと, ボールは……。

荒木 -003    はいはい。 -004    これでいいかしら。

朴    -005    あ, すいません。

山田 -006    じゃあ, ぼく, 野菜を切ります。

王    -007    え。 -008    入れるものは, にんじんに, たけのこに, ねぎ  
に, とり肉に, ……。

山田 -009    あ, あと, しょうがとにんにくもでしょ?

王    -010    あ, そうです。

---

場面(2) 食堂。<sup>しょくどう</sup>

王 -011 小川<sup>おがわ</sup>さん、それ、かわとほねをとって、てきとうに切<sup>き</sup>ってください。

小川 -012 はあい。-013 お魚<sup>さかな</sup>って、なんかねえ。-014 あ、お魚<sup>さかな</sup>は、あんまりさわったこと、ないんです。-015 あの、切<sup>き</sup>る大<sup>おお</sup>きさは？

王 -016 ええと、これぐらいかな。-017 切<sup>き</sup>ったら塩<sup>しお</sup>こしょうしてくださいね。

---

場面(3) 台所。<sup>だいどころ</sup>

---

場面(4) 食堂。<sup>しょくどう</sup>

山田 -018 王<sup>おう</sup>さん、ニンジンはどんなふう<sup>き</sup>に切ります？

王 -019 ええと、ほそ長<sup>なが</sup>く。

山田 -020 あ、……千切<sup>せんぎ</sup>りですね。-021 これくらいでいいですか。

王 -022 はい。

---

王 -023 あ、お帰<sup>かえ</sup>り。-024 山田<sup>やま だ</sup>さん、純<sup>じゅん</sup>ちゃんです。

山田 -025 山田<sup>やま だ</sup>です。

小川 -026 こんにちは。-027 小川<sup>おがわ</sup>です。

荒木 -028 純<sup>じゅんこ</sup>子、ごあいさつは。

純子 -029 こんにちは。

荒木 -030 先<sup>さき</sup>に手<sup>て</sup>を洗<sup>あら</sup>ってきなさい。

純子 -031 はあい。

---

場面(5) <sup>だいどころ</sup> 台所。 <sup>しょくどう</sup> 食堂。

山田 -032 いいですか。

朴 -033 ちょっとまってください。 -034 おさけ、 <sup>しお</sup> 塩， さとう。

-035 はい， いいですよ。 -036 あ， ごまあぶらは <sup>さいご</sup> 最後に。

山田 -037 あ， そうですか。

---

場面(6) <sup>しょくどう</sup> 食堂。

純子 -038 わあ， すごい。

王 -039 さあ， <sup>た</sup> 食べましょう。

一同 -040 いただきまーす。

純子 -041 うん， おいしい。

荒木 -042 うん， おいしい。 -043 うまくできましたね。

山田 -044 <sup>おう</sup> 王さん， <sup>りょうり</sup> 料理， <sup>じょうず</sup> 上手ですねえ。

小川 -045 そうだ， <sup>こんど</sup> 今度は <sup>かんこくりょうり</sup> 韓国料理， <sup>おし</sup> 教えてくださいよ。

朴 -046 そうですね。 -047 じゃあ， やりましょうか。

---

---

セグメント 11 <sup>かわ</sup>川で — <sup>で あ</sup>出会う —

(ストーリーIV「恋人」(a))

---

<sup>とうじょう じんぶつ</sup>登場人物 <sup>むら い あ き こ</sup>村井亜紀子 (大学3年生) <sup>ふかざわよしあき</sup>深沢良昭 (大学4年生)

---

場面(1) <sup>かわ</sup>川のそば。

---

場面(2) <sup>おな ば しょ</sup>同じ場所, <sup>じ かん</sup>1時間ぐらい<sup>あと</sup>後。

---

場面(3) <sup>かわ</sup>川のそばの<sup>の ば</sup>ボート乗り場。

深沢 -001 ああ, ごめんなさい。

亜紀子 -002 けさ, <sup>うた</sup>歌ってたでしょう。

深沢 -003 え?

亜紀子 -004 あれ, <sup>みんよう</sup>民謡ですか。

深沢 -005 ああ, <sup>き</sup>聞いてました。-006 サークルでね, <sup>みんよう</sup>民謡やってる  
んです。

---

場面(4) <sup>おな ば しょ</sup>同じ場所。

深沢 (声) -007 ほんとに, プロになりたいんだ。

---

セグメント 12 船ふねに乗のてみますか ― 案内あんないする ―

---

(ストーリーⅢ「仕事」(c))

---

登場人物 クラウディア・ロッシ (イタリア人, ヤングトラベルの  
アルバイト)

池田いけだ洋子ようこ (ヤングトラベル社員しゃいん)

鈴木すずき和広かずひろ (東京ベイトピア社員しゃいん)

---

場面(1) 東京ベイトピアの中なかの丘おかの上うえ。

鈴木 -001 あの三角さんかくのやねが水族館すいぞくかんです。-002 その右みぎの方ほうがみなと  
になってます。-003 よろしかったら, こちらへ。

池田 -004 クラウディアさん。

クラウディア -005 はい。

---

場面(2) メリーゴーラウンドのあたり。

鈴木 -006 お昼ひるは, いちおうここで食たべられるんですが。

池田 -007 そうですねえ。-008 アイスcreamに, やきそばに, ハ  
ンバーガー, ……。-009 もう少しおちついて食たべられるところは  
ありませんか。

鈴木 -010 ええと, レストランは山やまのむこうに4けんあります。

クラウドディア -011 <sup>いけ だ</sup>池田さん、タコやきって、<sup>わしょく</sup>和食ですか。

池田 -012 <sup>わしょく</sup>和食？…… -013 レストランって、どちらですか。

鈴木 -014 あ、どうぞこちらへ。

クラウドディア -015 <sup>ようしょく</sup>洋食じゃないなあ。 -016 …… ま、いっか。

---

場面(3) レストラン。

クラウドディア -017 あ、おもしろそう。 -018 <sup>どうぶつ</sup>動物にえさをやるそうですよ。

池田 -019 え、<sup>どうぶつ</sup>動物？

鈴木 -020 ペンギン、イルカ、シロクマ、あとは<sup>さかな</sup>魚ですね。 -021 えさをやるところが<sup>み</sup>見られるんです。 -022 あとでごあんないしますよ。

池田 -023 おねがいします。

クラウドディア -024 いいけしきですねえ。 -025 やっぱり<sup>うみ</sup>海はいい。

鈴木 -026 あ、そうそう、ふねにものってみてくださいね。

池田 -027 ふねですか。 -028 どこへ<sup>い</sup>行くんですか。

鈴木 -029 しまのまわりをまわるんです。 -030 <sup>き も</sup>気持ちいいですよ。

クラウドディア -031 わたし、ちょっとえんりよします。

池田 -032 どうして。

クラウドディア -033 わたし、ふねによわいんです。

---

場面(4) <sup>ふね の</sup>船の乗り場。



---

セグメント 13 お茶にします — アドバイス —

(ストーリーⅡ「友達」(e))

---

とうじょう じんぶつ おう すうりょう ちゅうごくじん だいがくいんせい やまだ やすひろ だいがくじょしゅ  
登場人物 王 崇梁 (中国人, 大学院生) 山田康浩 (大学助手)  
がくせい だいがく ねんせい  
学生 (大学3年生)

---

場面(1) <sup>なんかいだいがくこくごがっけんきゅうしつ</sup> 南海大学国語学科研究室。

王 -001 ここはしずかでいいですねえ。

山田 -002 ああ、<sup>きょういくがくぶ ほう</sup>教育学部の方は、<sup>ちか</sup>グラウンドが近いから、ちょっとうるさいでしょう。

学生 -003 <sup>やまだ</sup>山田さん、あのう、…… -004 あ、すいません。

王 -005 あ、いいですよ。 -006 どうぞ。

学生 -007 すいません。 -008 ええと、<sup>かわだ せんせい</sup>川田先生のゼミ、<sup>で ほう</sup>出た方がいいでしょうか。

山田 -009 ええ? -010 どうして。

学生 -011 <sup>しん りがく こう ぎ</sup>心理学の講義と同じ時間<sup>じ かん</sup>なんで、まよってるんです。

山田 -012 <sup>そつろん なん</sup>卒論は、何にするの。

学生 -013 <sup>めいじじだい がいらいご</sup>明治時代の外来語です。

山田 -014 あ、それじゃ<sup>かわだ せんせい ねんせい</sup>川田先生は3年生のうちにとった方が<sup>ほう</sup>いいな。 -015 <sup>しん りがく ねん</sup>心理学は、4年になってからも聞けるからね。

学生 -016 そうですか。 -017 じゃ、やっぱり<sup>かわだ せんせい</sup>川田先生、<sup>で</sup>出ることになります。 -018 どうも。 -019 しつれいします。

---

場面(2) <sup>おう やまだ</sup>王と山田。

王 -020 <sup>やまだ</sup>山田さん、わたしもそうだんしていいですか。

山田 -021 え、<sup>なん</sup>何ですか。

王 -022 ちょっと<sup>ほん</sup>ほしい本があるんですが、もう<sup>う</sup>売ってないらしいんですよ。

山田 -023 <sup>と しょかん</sup>図書館にもないんですか。

王 -024 できれば<sup>くに も</sup>国へ<sup>かえ</sup>持って帰りたいんで、<sup>ふるほん や</sup>古本屋でさがそうと思  
うんですけど、

山田 -025 ええ。

王 -026 <sup>ふるほんや</sup>古本屋ってどこにあるんでしょう。

山田 -027 ああ、<sup>じんぼうちょう い</sup>神保町に行けば、たくさんありますよ。

王 -028 じんぼうちょうって、どのへんですか。

山田 -029 ええっと、<sup>すいどうばし えき</sup>水道橋の駅から……<sup>ある</sup>歩いて、10分<sup>ぶん</sup>ぐらいです  
ね。-030 こっちが<sup>しんじゅく</sup>新宿、こっちが<sup>とうきょう</sup>東京。

王 -031 はい。-032 じゃ、<sup>い</sup>行ってみます。

山田 -033 ぼくも、よく<sup>い</sup>行くんですよ。-034 <sup>こん ど</sup>今度いっしょに<sup>い</sup>行きま  
しょうか。

王 -035 あ、ぜひおねがいします。

山田 -036 ええと、あさって、どうですか。

王 -037 ええと、<sup>きんよう</sup> 金曜日ですか。-038 その<sup>ひ</sup>日は、ちょっと……。

山田 -039 じゃあ、<sup>らいしゅう</sup> 来週は、……<sup>かよう</sup> 火曜<sup>ご</sup>の午後、どうですか。

王 -040 はい。-041 じゃあ、<sup>かよう</sup> 火曜日。-042 <sup>きんよう</sup> 金曜は、<sup>うちだせんせい</sup> 内田先生の  
お<sup>しょうたい</sup>たくに招待されてるんです。

山田 -043 へえ。

王 -044 先生<sup>せんせい</sup>のおた<sup>も</sup>くにうかがうのははじめてなんですけど、どんなものを持<sup>も</sup>っていったらいいでしょうか。

山田 -045 そうですねえ、<sup>たか</sup> 高いものじゃなくていいですよ。-046 やっぱりおかし<sup>も</sup>がいいかな。

王 -047 あ<sup>ちや</sup>のう、お茶はどうでしょう。-048 <sup>ちゅうごくちや</sup> 中国茶。

山田 -049 あ、いいかもしれませんね。-050 <sup>ちゅうごく</sup> 中国のお茶は<sup>ちや</sup> 日本<sup>にほん</sup>でも  
<sup>にんき</sup> 人気がありますよ。

王 -051 じゃ、そうしようかな。-052 <sup>やまだ</sup> ところで、山田さんは？  
-053 <sup>ちゅうごくちや</sup> 中国茶はおすきですか。

---

セグメント 14 お礼状？ — 教わる —

---

(ストーリー I 「勉強」 (d))

---

とうじょう じんぶつ ちょうぎょくへい ちゅうごくじん にほん ごがっこうがくせい  
登場人物 張 玉萍 (中国人, 日本語学校学生)

ただだよしこ ちょう ほしょうにん むすめ たけだたえこ よしこ はは  
武田芳子 (張の保証人の娘) 武田妙子 (芳子の母)

---

場面(1) たけだけ い ま  
武田家の居間。

母 -001 まいにち 毎日あついですねえ。 -002 むぎ茶, どうぞ。

張 -003 いただきます。

芳子 -004 ちょう 張さん, なつやす しがらき い  
夏休みに信楽へ行ったんですって。

母 -005 あら, わたし行ったことがないわ。

張 -006 そうですか。 -007 よかったですよ。 -008 これ, おみやげ  
です。

母 -009 あらあ, どうもありがとう。 -010 おも 重いのねえ。 -011 たい  
へんだったでしょう？

張 -012 あ。 開けてみてください。

母 -013 なに 何かしら。…… -014 まあ。

芳子 -015 すてきねえ。

張 -016 ともだち 友達がこういうのを<sup>つく</sup>作っていて, その人の<sup>ひと さくひん</sup>作品なんです。

母 -017 そう。 -018 りっぱなはいざらねえ。

張 -019 あのう, それ, …… , ええっと, お花<sup>はな</sup>を……

母 -020 あ, ごめんなさい。 -021 そうね。 -022 はいざらには,  
ちょっとふかすぎるわね。

---

場面(2) <sup>おな い ま</sup> 同じ居間。

張 -023 わたしも、<sup>ちゃ つく</sup> 茶わんを作りました。-024 <sup>ともだち おそ</sup> 友達に教わって。

芳子 -025 へえ。

母 -026 <sup>ともだち</sup> そのお友達には、<sup>せ わ</sup> ずいぶんお世話になったのねえ。 -027  
<sup>れいじょう だ</sup> お礼状は、出したの？

張 -028 <sup>れいじょう</sup> お礼状？ -029 おれいの……、あ、<sup>てがみ</sup> 手紙ですか。

母 -030 そうそ。-031 <sup>かえ</sup> 帰ってきたらすぐに<sup>か</sup> 書かなくっちゃ。

張 -032 そうですかあ。-033 ええと、<sup>か</sup> どんなふう<sup>か</sup> に書けばいいですか。

芳子 -034 そうねえ。 -035 ええっと……、その<sup>せつ</sup> 節はありがとうございます  
いました。

張 -036 そのせつ？

芳子 -037 <sup>とき い み</sup> その時<sup>たの</sup> って意味ね。-038 それから、とても楽しかったで  
す。 -039 <sup>おそ</sup> 遅くなって、<sup>しつれい</sup> 失礼いたしました。 -040 <sup>しゃしん</sup> 写真ができたの  
で、<sup>おく</sup> お送りします。 -041 またいつか、<sup>おも</sup> おじゃましたいと思いま  
す。 -042 <sup>げん き</sup> お元気で、とかね。

張 -043 はい。-044 じゃあ、<sup>れいじょう か</sup> すぐにお礼状<sup>か</sup> 書きます。

母 -045 あら、もう5時。 -046 <sup>じ</sup> 張さん、<sup>ちょう</sup> ばんご飯、<sup>はん</sup> 用意してあり  
ますからね。 -047 なんにもありませんけど。

張 -048 なにもないんですか。

芳子 -049 なんにもないけど、いろいろあるんですよ。

---

セグメント 15 実は…… — 報告する —

---

(ストーリーⅢ「仕事」(d))

---

とうじょう じんぶつ たにやまはる お き かくかちょう  
登場人物 谷山治男 (ヤングトラベル企画課長)  
いけだ ようこ たにやま ぶ か えぐちとおる たにやま ぶ か  
池田洋子 (谷山の部下) 江口徹 (谷山の部下)  
エレン・ソウザ (ブラジル人, アルバイト)  
はんばいそくしんぶちょう たにやま じょうし  
販売促進部長 (谷山の上司)

---

場面(1) ヤングトラベル企画課のオフィス。

エレン -001 池田さん, 徳島のホテル, よやくをキャンセルしましたか。

池田 -002 ええっ? -003 江口さん, 徳島のホテルの予約金, はらってないの?

江口 -004 ええ? -005 ええっと, -006 料金の35%を9月5日まで……。 -007 しまった。 -008 わすれてました。

池田 -009 とにかく, ホテルに電話してみて。 -010 急いでへやをさがさなくちゃ。

江口 -011 はい……。

---

場面(2) <sup>たにやま</sup> 谷山 <sup>せき</sup> の席。

江口 -012 <sup>かちょう</sup> 課長，あのう，11 <sup>がつ</sup> 月の <sup>しこく</sup> 四国ツアーなんです，

谷山 -013 うん。

江口 -014 あのう，<sup>とくしま</sup> 徳島のホテルに <sup>よやくきん</sup> 予約金をはらうのをわすれまして，

谷山 -015 ええっ？

江口 -016 キャンセルになってしまったんです。

谷山 -017 ホテルのたんとうは……，<sup>えぐち</sup> 江口くんか？

江口 -018 すいません！

谷山 -019 どういうことなんだ。

江口 -020 ええ，それが，<sup>せんしゅう</sup> 先週，<sup>しゅつちょう</sup> 出張があったり，えっ，いろいろと……。

谷山 -021 うーん，<sup>じぶん</sup> 自分の <sup>しごと</sup> 仕事には <sup>も</sup> せきにんを持ってもらわないとね。

江口 -022 はい，もうしわけありません。



谷山 -023 それで、へやは空<sup>あ</sup>いてないの？

池田 -024 徳島<sup>とくしま</sup>はもういっぱい<sup>あ</sup>のようです。 -025 高松<sup>たかまつ</sup>ならまだ空<sup>あ</sup>いているそうですが。

谷山 -026 しかたがない。 -027 じゃまず、高松<sup>たかまつ</sup>のホテルをよやくして。

池田 -028 それからバス会社<sup>がいしゃ</sup>にれんらくします。

谷山 -029 うん。 -030 エレンさんは、新<sup>あた</sup>しいスケジュール表<sup>ひょう</sup>の用意<sup>ようい</sup>をたのむ。

エレン -031 わかりました。

谷山 -032 いちおう、部長<sup>ぶちよう</sup>にも話<sup>はな</sup>しとこう。

江口 -033 もうしわけありません。

---

場面(3) 部長室<sup>ぶちようしつ</sup>。

谷山 -034 しつれいします。

部長 -035 はあい。

谷山 -036 じつは、11<sup>がつ</sup>月の徳島<sup>とくしま</sup>のことなんですが、

部長 -037 うん？ -038 なんか、まずいこと？



---

セグメント 16 よくわかりません — あきらめる —

---

(ストーリーⅡ「友達」(e))

---

とうじょう じんぶつ バク ヘファン かんこくじん だいがくいんせい      でんきや てんいん  
登場人物 朴 海煥 (韓国人, 大学院生)      電器屋の店員

---

場面(1) ワープロ<sup>うりば</sup>売場。

店員 -001 お待<sup>ま</sup>たせしました。 -002 どうもありがとうございます。  
た。

---

店員 -003 ワープロですか。

朴 -004 ええ。

店員 -005 ええと、ごよさんはどのくらい。

朴 -006 まあ、安<sup>やす</sup>い方<sup>ほう</sup>がいいですけど。

店員 -007 メーカーは、きめてらっしゃいますか。

朴 -008 いや、べつに考<sup>かんが</sup>えていません。

店員 -009 どういったことにお使<sup>つか</sup>いになるんですか。

朴 -010 ええっと、レポ<sup>か</sup>ートを書いたり、資<sup>しりょう</sup>料<sup>つく</sup>を作ったり。

店員 -011 そうですか。 -012 これどうでしょう。 -013 イラストが書<sup>か</sup>  
けるし、カラ<sup>き</sup>ーいんさつとか、機<sup>き</sup>能<sup>のう</sup>が多<sup>おほ</sup>いんですよ。

朴 -014 イラストお。 -015 ううん、イラストは書<sup>か</sup>かないと思<sup>おも</sup>いま  
す。

店員 -016 そうですか。 -017 じゃあ、これは いかがですか。 -018  
10万<sup>まん</sup>8千<sup>せん</sup>円で、けっこう安<sup>やす</sup>いですよねえ。 -019 先<sup>せん</sup>月<sup>げつ</sup>出<sup>で</sup>たばかり  
です。

朴 -020 あのう、ハングルが<sup>つか</sup>使えるのはありませんか。

店員 -021 えっ、ハングル。 -022 それはむずかしいですねえ。 -023

ワープロでハングルはねえ。 -024 パソコンにワープロソフトをの  
つけるかたちなら、<sup>つか</sup>使えるのがあるかもしれませんけど。

朴 -025 え？ -026 パソコンに……。

店員 -027 ワープロのソフトウェアですね。 -028 パソコンの<sup>うえ</sup>でワ  
ープロソフトを<sup>はし</sup>走らせるわけですけど。

朴 -029 ソフトっていうと、どんな。

店員 -030 ええ、<sup>にほんご</sup>日本語のワープロは<sup>にほんご</sup>日本語しか<sup>つか</sup>使えませんから、ハ  
ングルと<sup>にほんご</sup>日本語が<sup>つか</sup>使えるワープロのソフトをパソコンに<sup>つか</sup>のせて使う  
わけですね。

朴 -031 ううん、ちょっとわかりませんから、<sup>ともだち</sup>友達に<sup>おし</sup>教えてもらっ  
てからにします。 -032 また<sup>き</sup>来ますから。

店員 -033 すいません。 -034 じゃ、よろしくおねがいします。 -035

ああ、ちょっとすいません。 -036 これ、ごさんこうに。 -037 ワー  
プロソフトは、たとえばこんなのですから。

朴 -038 ああ、どうも。

店員 -039 ありがとうございます。

---

セグメント 17 それでOK! — 説明する —

(ストーリーⅢ「仕事」(e))

---

とうじょう じんぶつ えぐちとおる <sup>しゃいん</sup>  
登場人物 江口徹 (ヤングトラベル社員)

エレン・ソウザ (<sup>じん</sup>ブラジル人, アルバイト)

あさのこうつうえいぎょうかちよう  
浅野交通営業課長

あさのこうつうしゃいん  
浅野交通社員

---

場面(1) ヤングトラベルのオフィス。

エレン -001 はい、ヤングトラベル<sup>きかくか</sup>企画課でございます。

江口 -002 あ、<sup>えぐち</sup>江口だけど。

エレン -003 ああ、<sup>えぐち</sup>江口さん。

江口 -004 <sup>いま</sup>今ね、<sup>あさの こうつう</sup>浅野交通さん<sup>しりよう</sup>にいるんだけど、ちょっと資料をファックスしてほしいんだ。

エレン -005 <sup>いま</sup>今、わたししかいないんです。-006 ファックスの<sup>つか</sup>使い方、よくわからないんですが。

江口 -007 うん、だいじょうぶ。-008 かんたんだよ。-009 ぼくの<sup>うえ やまがたけん</sup>くえの上の山形県のホテルリスト。

エレン -010 ええと、ちょっと<sup>ま</sup>待ってください。-011 はい。-012 これを、<sup>おく</sup>送るんですね。

江口 -013 うん。-014 まずそれをファックスにのせて、コピーみたいに。

エレン -015 コピーみたいに? -016 はい、のせました。

江口 -017 じゃあ、ばんごうはね、ええと、よんきゅうゼロなの、  
ごおにいいいち。

エレン -018 はい。 -019 4, 9, 0, 7, 5, 2, 1, 1。

江口 -020 ばんごうが<sup>で</sup>出た？

エレン -021 はい。 -022 4 9 0 7, 5 2 1 1。

江口 -023 よし、じゃあ、<sup>そうしん</sup>送信ていうのをおして。

エレン -024 ええと、この<sup>おお</sup>大きいボタンですね。

江口 -025 うん。 -026 どうなった。

エレン -027 ソウシンチュウ<sup>で</sup>って出ました。

江口 -028 あ、じゃそれでOKだ。 -029 どうもありがとう。

エレン -030 はい。 -031 それじゃ。

---

場面(2) <sup>あさのこうつう</sup>浅野交通のオフィス。

課長 -032 18<sup>にち</sup>日が3<sup>だい</sup>台, 19<sup>にち</sup>日が3<sup>だい</sup>台, 20<sup>は っ か</sup>日が4<sup>だい</sup>台ですね。

江口 -033 はい、それでけっこうです。

社員 -034 <sup>かちょう</sup>課長。

課長 -035 9<sup>がつ</sup>月26<sup>にち</sup>日, 美<sup>み</sup>香<sup>か</sup>たんじょう<sup>び</sup>日。 -036 6<sup>じ</sup>時, 四<sup>よつ</sup>谷<sup>や</sup>ミス  
ィ。 -037 いいなあ, わかい<sup>ひと</sup>人は。

---

セグメント 18 <sup>しゅうしょく</sup>就職 — <sup>ようす</sup>様子をきく —

---

(ストーリーIV「恋人」(b))

---

<sup>とうじょう</sup>登場人物 <sup>じんぶつ</sup>村井亜紀子 (大学3年生) <sup>ふかざわよしあき</sup>深沢良昭 (大学4年生)

<sup>てんいん</sup>レストラン店員

---

場面(1) <sup>えき</sup>駅。

亜紀子 -001 ごめんなさい。-002 <sup>じゅぎょう</sup>授業が<sup>なが</sup>長くなっちゃって。

深沢 -003 <sup>い</sup>行こうか。

---

場面(2) レストラン。

亜紀子 -004 あ、キウイのワインがある。

深沢 -005 <sup>の</sup>飲んでみようか。

亜紀子 -006 うん。-007 <sup>きょう</sup>今日もあの<sup>こうこくがいしゃ</sup>広告会社ですか。

深沢 -008 うん。-009 <sup>どうなんじょうほう</sup>道南情報。

亜紀子 -010 どこにあるんですか。

深沢 -011 <sup>なか の ほう</sup>中野の方。-012 <sup>ほんしゃ</sup>本社は<sup>ほっかいどう</sup>北海道の、ええと、<sup>さっぽろ</sup>札幌で<sup>なか の</sup>中野は  
<sup>してん</sup>支店だって。

店員 -013 おきまりですか。

---

亜紀子 -014 すいません、ちょっと。

深沢 -015 ああ。

---

場面(3) <sup>おな</sup> <sup>ば</sup> <sup>しょ</sup>  
同じ場所。

亜紀子 -016 しゅうしょく、きまりそうですか。

深沢 -017 うん。-018 たぶん、<sup>きょう</sup>今日の<sup>はい</sup>ところに入ると<sup>おも</sup>思うな。

亜紀子 -019 じゃあ、<sup>かしゅ</sup>歌手はあきらめるんですか？

深沢 -020 それは<sup>ゆめ</sup>夢さ。-021 <sup>かしゅ</sup>歌手人<sup>せいかつ</sup>なっても、生活できないよ。

-022 ……<sup>うた</sup>歌は、つづけるよ。

亜紀子 -023 ……<sup>ほっかいどう</sup>北海道、<sup>い</sup>行っちゃうんですか。

深沢 -024 まだわからないよ。-025 あの会社<sup>かいしゃ</sup>にしゅうしょくしたら、<sup>けんしゅう</sup>たぶん、研修は札幌<sup>さっぽろ</sup>だろうけど。-026 そのあと、どこへ<sup>い</sup>行くことになるかわからない。

亜紀子 -027 <sup>とうきょう</sup>東京にいて。

深沢 -028 だいじょうぶだよ。



---

セグメント 19 <sup>こうがいがくしゅう</sup> 校外学習 — <sup>はな あ</sup> 話し合う —

---

(ストーリー I 「勉強」(e))

---

<sup>とうじょう じんぶつ</sup> 登場人物 <sup>ちやうぎよくへい</sup> 張 <sup>ちゅうごくじん</sup> 玉萍 (中国人, <sup>にほんごがっこうがくせい</sup> 日本語学校学生)

<sup>ごとうのりこ</sup> 後藤紀子 (<sup>にほんごがっこう</sup> 日本語学校の教師)

<sup>がくせい</sup> (学生たち) <sup>じん</sup> パチャリー・ラタナーワン (タイ人)

<sup>じん</sup> ミーチャ (ロシア人) <sup>じん</sup> ロイド (オーストラリア人)

<sup>じん</sup> アレミン (イラン人) <sup>じん</sup> アルバー (デンマーク人)

<sup>じん</sup> ダナヤー (タイ人)

---

場面(1) <sup>にほんごがっこう</sup> 日本語学校の教室。

後藤 -001 <sup>らいげつ</sup> 来月の校外学習について, <sup>いけん き</sup> みなさんの意見を聞きます。

-002 <sup>こうがいがくしゅう</sup> 校外学習というのは, <sup>がっこう そと べんきょう</sup> 学校の外で勉強するということです。

-003 <sup>ひとり</sup> よさんは一人2500円です。 -004 <sup>い</sup> みなさん, どこへ行きたいですか。

ロイド -005 カラオケがいいです。 -006 <sup>にほんご べんきょう</sup> 日本語の勉強になります。

ミーチャ -007 <sup>うた</sup> わたしは, 歌がへたですから, <sup>ほう</sup> ボーリングの方がいいです。

アルバー -008 あ, ディスコもいいですよ。

後藤 -009 <sup>べんきょう</sup> ボーリングやディスコは勉強になりますか。

アレミン -010 <sup>どうぶつえん</sup> じゃ, 動物園はどうですか。

張 -011 みんなで話すより、グループに分かれて意見をまとめたら  
どうでしょうか。

後藤 -012 え、それがいいですね。

---

場面(2) 張, パチャリー, ロイドのグループ。

張 -013 10月は台風が来るかもしれないから、雨がふっても行ける  
ところがいいと思うんです。

パチャリー -014 あのう、この間、友達が水族館に行ったんです。

-015 魚がたくさんいて、とてもきれいだったそうです。

ロイド -016 どこの水族館ですか。

パチャリー -017 葛西です。 -018 東京駅から電車で10分ぐらいで  
す。

張 -019 近いし、雨がふっても行けるし……、勉強になりますよね。

ロイド -020 んー、水族館にしましょう。

---

場面(3) ミーチャの発表。

ミーチャ -021 わたしたちは、日光へ行くのがいいと思います。 -022  
日光には有名な神社があります。 -023 10月はもみじがきれいで  
す。 -024 山にのぼったり、みずうみでボートにのったりすると、  
楽しいと思います。



ロイド -025 雨がふったらどうするんですか。

ミーチャ -026 雨はふらないと思います。 -027 雨がふったら、日光でボーリングをしましょう。

張 -028 日光は、かなりとおいんじゃないかと思いますが。

ロイド -029 それに、お金が足りないでしょう。

ミーチャ -030 それが問題です。 -031 たぶん、一人2000円ぐらい集めなければなりません。

一同 -032 えー？

---

場面(4) パチャリーの発表。

パチャリー -033 わたしたちは、水族館がいいと思います。 -034 東京駅から電車で10分ぐらいの葛西というところにあります。 -035 近いし、雨がふってもだいじょうぶです。 -036 近くの海岸であそぶこともできます。

ミーチャ -037 わたしはその水族館へ行ったことがありますから、もういいです。

パチャリー -038 でもほかの人は行ったことがありません。

後藤 -039 では、手をあげてきめましょう。 -040 まず、日光へ行きたい人は、手を上げてください。……

---

とうじょう じんぶつ    せいねん    おんな こ    てら ひと  
登 場 人 物    青 年    女 の 子    お 寺 の 人 ち ち

---

場面(1) むら みち てら  
村の道, 寺。

ナレーション -001 ぼくはバイクで旅<sup>たび</sup>をしていました。-002 その日<sup>ひ</sup>  
は友達<sup>ともだち</sup>の家にとめてもらうつもりでしたが、道<sup>みち</sup>がわからなくなって  
しまいました。-003 一軒<sup>いっけん</sup>のお寺<sup>てら</sup>をみつけたので、中<sup>なか</sup>に入<sup>はい</sup>っていき  
ました。-004 お寺<sup>てら</sup>の人<sup>ひと</sup>にた<sup>ひと</sup>の<sup>ひと</sup>ので、一ばんとめてもらうことにし  
ました。

場面(2) てら なか  
寺の中。

ナレーション -005 お寺<sup>てら</sup>の人<sup>ひと</sup>は、広<sup>ひろ</sup>いた<sup>ひろ</sup>た<sup>ひろ</sup>みの<sup>ひろ</sup>へやにふとんをしいて  
くれました。

青年 -006 ああ、つかれた。

ナレーション -007 秋<sup>あき</sup>のむしが<sup>あき</sup>ない<sup>あき</sup>て<sup>あき</sup>いま<sup>あき</sup>した。-008 月<sup>つき</sup>が<sup>つき</sup>きれい<sup>つき</sup>で  
した。-009 すずしい風<sup>かぜ</sup>が<sup>かぜ</sup>ふ<sup>かぜ</sup>き<sup>かぜ</sup>まし<sup>かぜ</sup>た。-010 少し<sup>すこ</sup>こわ<sup>すこ</sup>くなり<sup>すこ</sup>まし<sup>すこ</sup>  
た。

場面(3) てら まえ  
寺の前。

ナレーション -011 だれかがかたにさわりました。

青年 -012 ああ、おどろいた。-013 きみだれ？ -014 このうちの子<sup>こ</sup>？

ナレーション -015 それは、ひとり<sup>ひとり</sup>のおんな<sup>おんな</sup>のこ<sup>こ</sup>の子<sup>こ</sup>でした。

青年 -016 はなび<sup>はなび</sup>花<sup>はなび</sup>火<sup>はなび</sup>やり<sup>はなび</sup>たい<sup>はなび</sup>の？

ナレーション -017 女の子は、ゆかたを着て、手に花火を持っていた。  
-018 女の子は、花火をやりたがっていました。-019 火をつけてやると、女の子はとてもうれしそうでした。

青年 -020 ぼくにもくれるの？ -021 じゃあ、いっしょにやろうか。

ナレーション -022 それから、ぼくたちは、何本も何本も花火をしました。

---

場面(4) 次の朝。

ナレーション -023 目がさめると、ぼくはふとんの中にいました。

青年 -024 あれ、いつねちゃったんだろう。

---

場面(5) お寺の台所。

ナレーション -025 お寺の人といっしょに朝ごはんを食べました。

-026 部屋のすみには、仏壇がありました。-027 仏壇には、小さな写真がおいてありました。



---

セグメント 21 <sup>うみ そこ</sup>海の底 — <sup>あらわ</sup>ことばで表す —

---

(ストーリーⅡ「友達」(g))

---

<sup>とうじょう じんぶつ</sup>登場人物 <sup>おう</sup>王 <sup>すうりょう</sup>崇梁 (<sup>ちゅうごくじん</sup>中国人, <sup>だいがくいんせい</sup>大学院生)

<sup>やま だやすひろ</sup>山田康浩 (<sup>だいがく じょしゅ</sup>大学の助手)

<sup>バク ヘファン</sup>朴海煥 (<sup>かんごくじん</sup>韓国人, <sup>だいがくいんせい</sup>大学院生, <sup>おう せんぱい</sup>王の先輩)

<sup>おがわ あけみ</sup>小川明美 (<sup>やまだ</sup>山田のガールフレンド)

---

場面(1) <sup>すいぞくかん まえ</sup>水族館の前。

---

場面(2) <sup>すいぞくかん なか</sup>水族館の中。

小川 -001 わあ。

山田 -002 へええ。

朴 -003 おもしろい。-004 <sup>うみ</sup>海のそこにいるようですねえ。

小川 -005 ねえ, これ, ガラスでしょ。-006 こわれないかな。

山田 -007 まさか。

王 -008 でも, やっぱこわいですよね。

朴 -009 こういふところ, どうやってつけてあるんでしょうねえ。

小川 -010 いやあだ。-011 やめてくださいよお。

---

場面(3) 水<sup>すい</sup>そうの<sup>まえ</sup>前。

小川 -012 あ、あれ、きれいねえ。-013 とってもスマート。-014 なんていう魚<sup>さかな</sup>かしら。

王 -015 ええと、どれですか。

小川 -016 ほらほら、あそこ。-017 わりに<sup>おお</sup>大きくって、<sup>ぎんいろ</sup>銀色で、しっぽ<sup>ほう</sup>の方にきいろいせんがある。

王 -018 ええと、きいろいせん。-019 あ、これでしょう。-020 シマアジだそうですよ。

小川 -021 ええ？ あれがシマアジ。-022 おさしみにすると、おいしいのよね。

王 -023 あれは、マダイでしょう。

小川 -024 どれどれ。タイもおいしいんですよ。

朴 -025 小川<sup>お がわ</sup>さん、魚<sup>さかな</sup>の料理<sup>りょうり</sup>はしないんでしょう。

小川 -026 朴<sup>ハク</sup>さん！ もう。-027 最近<sup>さいきん</sup>は、やってるんですよ。-028 カレイとか、タコとか。

山田 -029 ウナギとかね。

小川 -030 そうそう、目<sup>め</sup>がない魚<sup>さかな</sup>ね。

王 -031 目<sup>め</sup>がない魚<sup>さかな</sup>？

山田 -032 ほら、カレイもタコも、切<sup>き</sup>って売<sup>う</sup>ってるでしょう。

小川 -033 だって、魚<sup>さかな</sup>の目<sup>め</sup>って、気<sup>き</sup>持<sup>も</sup>ち悪<sup>わる</sup>いんですよ。

朴 -034 あ、あれ、<sup>にほんご なん い</sup>日本語で何と言いますか。

山田 -035 え、あれですか。-036 ええと、サメですね。-037 そうそう、カマボコはサメから<sup>つく</sup>作るそうですよ。

朴 -038 へえ。-039 マルコバン？ -040 へんな<sup>なまえ</sup>名前ですねえ。

山田 -041 ええっと、マル - コバンでしょう。 -042 小判<sup>こばん</sup>って、ほ  
ら、むかし<sup>かね</sup>のお金。

朴 -043 あ、そうか。 -044 まるい小判<sup>こばん</sup>みたいだからですね。

---

場面(4) <sup>すい</sup>イルカの水<sup>まえ</sup>そうの前。

小川 -045 いいなあ。-046 わたしも、<sup>はや</sup>早くイルカといっしょにおよ  
げるようになりたあい。

山田 -047 え、イルカといっしょに？

小川 -048 あ、わたし、<sup>さいきん</sup>最近<sup>なら</sup>ダイビングを習<sup>なら</sup>ってるの。

山田 -049 へえ、<sup>し</sup>知らなかった。

小川 -050 コーチが、ハンサムな<sup>ひと</sup>人でねえ。

山田 -051 なんなの、それ。

王 -052 <sup>やま だ</sup>山田さんも、ダイビング<sup>なら</sup>習<sup>なら</sup>わなくちゃ。

朴 -053 ぼくもやってみようかな。

小川 -054 ええ。-055 わたし<sup>い</sup>が行<sup>い</sup>ってるスクールしょうかいしまし  
ょうか。

---

セグメント 22 <sup>しょうしょう ま</sup>少々お待ちください — <sup>おうせつ</sup>応接 —

---

(ストーリーⅢ「仕事」(f))

---

<sup>とうじょう じんぶつ</sup>登場人物 クラウディア・ロッシ (<sup>じん</sup>イタリア人, ヤングトラベル  
のアルバイト)

<sup>えぐち とおる</sup>江口 徹 (<sup>しゃいん</sup>ヤングトラベル社員)

<sup>しゃいん</sup>社員 (<sup>そう む か</sup>ヤングトラベル総務課の<sup>しゃいん</sup>社員)

<sup>やまうち たかお</sup>山内孝雄 (<sup>しゃいん</sup>サクラツアーズ社員)

<sup>はしもと こ</sup>橋本しず子 [<sup>こえ</sup>声] (<sup>かちょう い みせ</sup>課長がよく行く店のおかみ)

---

場面(1) <sup>き か く か</sup>ヤングトラベル企画課のオフィス。

社員 -001 ええっとお、<sup>いけ だ</sup>池田さん、いらっしゃいます？

江口 -002 あ、ごめん。-003 <sup>きょう</sup>今日は、<sup>あさ</sup>朝から<sup>で</sup>出かけてる。-004 <sup>かえ</sup>帰っ  
てこないと思うな。

社員 -005 あ、そうですか。-006 あしたは。

江口 -007 <sup>ごぜんちゅう</sup>午前中は、いるはず。

社員 -008 はい。-009 どうも。

江口 -010 うん。

---

場面(2) <sup>ごご</sup>午後。

山内 -011 ごめんください。-012 サクラツアーズの<sup>やまうち</sup>山内でございま  
すが、…… -013 <sup>いけ だ</sup>池田さんは、いらっしゃいますでしょうか。

クラウディア -014 もうしわけありません。-015 <sup>いけ だ</sup>池田は、<sup>きょう</sup>今日<sup>そと</sup>外へ  
<sup>で</sup>出ておりますが。

山内 -016 あ、今日<sup>きょう</sup>ですね、あのう、2時<sup>じ</sup>のおやくそくだったんですが……。

クラウド -017 はあ。 -018 少々<sup>しょうしょう</sup>お待ち<sup>ま</sup>ください。 -019 江口<sup>えぐち</sup>さん、サクラツアーズさんなんですけど、池田<sup>いけだ</sup>さんから聞<sup>き</sup>いてますか。

江口 -020 あ、聞<sup>き</sup>いてる、聞<sup>き</sup>いてる。 -021 おうせつ室<sup>しつ</sup>へごあんないして。

クラウド -022 はい。 -023 しつれいいいたしました。 -024 こちらでちょっとお待<sup>ま</sup>ちください。

---

場面(3) 電話<sup>でんわ</sup>。

江口 -025 はい、ヤングトラベル企画<sup>きかく</sup>課でございませうが。

橋本 -026 あのう、谷山<sup>たにやま</sup>さん、いらっしゃる？

江口 -027 ええ、少々<sup>しょうしょう</sup>お待ち<sup>ま</sup>ください。 -028 クラウドさん、課<sup>か</sup>長<sup>ちやう</sup>は？

クラウド -029 あ、ええと、トイレだと思<sup>おも</sup>います。

江口 -030 お待<sup>ま</sup>たせいたしました。 -031 ただ今<sup>いま</sup>、ちょっとせき<sup>はず</sup>を外<sup>おも</sup>してございませうが。

橋本 -032 あらあ、じゃあ、またかけます。

江口 -033 もうしわけございませう。 -034 何か<sup>なに</sup>おつたえいたしましやうか。

橋本 -035 いえっ、けっこうです。

江口 -036 はい、よろしくおねがいたします。



---

セグメント 23 これはどうですか — 相談<sup>そうだん</sup>する —

---

(ストーリー I 「勉強」 (f))

---

登場人物 張 玉萍 (中国人, 日本語学校学生)

図書館職員 (学校の近くの図書館の職員)

---

場面(1) 図書館<sup>としょかん</sup>のカウンター。

張 -001 すいません、……。

職員 -002 はい。

張 -003 あのう、日本<sup>にほん</sup>がアジアから輸入<sup>ゆにゅう</sup>している物<sup>もの</sup>のことをしらべているんですが。

職員 -004 あ、ぼうえきですか。

張 -005 はい、何か<sup>ほん</sup>わかりやすい本はないでしょうか。

職員 -006 アジアからの輸入<sup>ゆにゅう</sup>についてわかりやすく書いた本<sup>ほん</sup>。……

-007 うーん、輸入<sup>ゆにゅう</sup>というと、どんな物<sup>もの</sup>を輸入<sup>ゆにゅう</sup>しているかとか、どうやって運ぶ<sup>はこ</sup>かとか、いろいろな問題<sup>もんだい</sup>がありますよねえ。

張 -008 ええ、とくに、東南アジア<sup>とうなん</sup>からの輸入品<sup>ゆにゅうひん</sup>のしゅるいのことを。

職員 -009 ……そうですね。-010 日本語<sup>にほんご</sup>でいいんですね。

張 -011 はい。-012 できるだけ新しい<sup>あた</sup>いのを……。

職員 -013 こんなのはどうですか。

張 -014 ええと、「アジアの<sup>けいざい</sup>経済と<sup>にほん</sup>日本」，現代<sup>げんだい</sup>経済<sup>けいざい</sup>研究所<sup>けんきゅうじょ</sup>編。

職員 -015 それから，これもいいかもしれません。-016 <sup>こうぎょう</sup>工業<sup>せいひん</sup>せいひんについては，これがいちばんくわしいと思<sup>おも</sup>いますよ。-017 ええ，3年前<sup>ねんまえ</sup>だから，ちょっと古<sup>ふる</sup>くなっているかもしれませんけど。

張 -018 あ，でも，いちおう<sup>み</sup>見<sup>み</sup>てみます。

職員 -019 ええと，ここで見<sup>み</sup>ますか。-020 それとも，借<sup>か</sup>りてゆきま  
すか。

張 -021 ええと，ちょっと時間<sup>じかん</sup>がないので，

職員 -022 じゃ，こちらへどうぞ。

張 -023 はい，ありがとうございます。

職員 -024 あと，その本<sup>ほん</sup>の参考<sup>さんこう</sup>文献<sup>ぶんけん</sup>のリスト<sup>み</sup>を見ると，もっといろん  
な本<sup>ほん</sup>が<sup>で</sup>出<sup>で</sup>ているでしょう。

---

場面(2) <sup>か</sup>貸<sup>だ</sup>し出しカウンター。

職員 -025 それじゃ，ちょっと貸<sup>か</sup>してください。

張 -026 はい。

職員 -027 <sup>か</sup>貸<sup>だ</sup>し出しカードはありますね。

張 -028 はい。

職員 -029 はい，どうぞ。

張 -030 どうも。

職員 -031 <sup>か</sup>貸<sup>だ</sup>し出しは2週間<sup>しゅうかん</sup>ですから，3月<sup>がつ</sup>ついたちまでに返<sup>かえ</sup>してく  
ださい。

張 -032 はい。 -033 どうもありがとうございました。

---

セグメント 24 <sup>しず</sup>静かに！ — <sup>はなし</sup>うわさ話 —

---

(ストーリー I 「勉強」(g))

---

<sup>とうじょう</sup>登場人物 <sup>じんぶつ</sup>張 <sup>ちょうぎよくへい</sup>玉萍 (<sup>ちゅうごくじん</sup>中国人, <sup>にほん</sup>日本語学校学生)

<sup>じん</sup>パチャリー・ラタナーワン (<sup>ちょう</sup>タイ人, <sup>どうきゅうせい</sup>張の同級生)

<sup>じん</sup>ミーチャ (<sup>ちょう</sup>ロシア人, <sup>どうきゅうせい</sup>張の同級生)

---

場面(1) <sup>としょかん</sup>図書館。

ミーチャ -001 ああ, <sup>ちょう</sup>張さん。

張 -002 どうかしたんですか。

ミーチャ -003 <sup>し</sup>知っていますか。-004 <sup>ご</sup>後藤先生は, <sup>がいく</sup>外国へ行ってしま  
うそうです。

張 -005 へえ, <sup>し</sup>知りませんでした。

パチャリー -006 どこですか。

ミーチャ -007 アデレードだそうです。

張 -008 アデレードって, どこですか。

パチャリー -009 オーストラリアです。

ミーチャ -010 2月の終わりに行ってしまがうんです。-011 わたしは  
<sup>さいご</sup>最後まで<sup>ご</sup>後藤先生<sup>なら</sup>に習いたい。

張 -012 ミーチャさん。

---

場面(2) <sup>と しょかん そと</sup> 図書館の外。

張 -013 もう、ミーチャさんたら、こえが<sup>おお</sup>大きいんだから。 -014  
ねえ。

ミーチャ -015 すみません。 -016 でも、とてもざんねんですね。

張 -017 <sup>せんせい い</sup>先生が行きたいなら、しかたがないでしょう。

パチャリー -018 <sup>せんせい しゅつぱつ まえ</sup>先生が出発する前に、パーティーをしましょう。

張 -019 あ、そうですね。 -020 <sup>そうべつかい</sup>送別会。

パチャリー -021 そうべつかい。

ミーチャ -022 うん、やりましょう。 -023 いつにしますか。 -024 <sup>らい</sup>来  
<sup>しゅう きんようび</sup>週の金曜日はどう？

張 -025 <sup>せんせい</sup>先生のつごうをきかなくちゃ。 -026 <sup>がいこく い まえ</sup>外国へ行く前だから、とてもいそがしいはずですよ。

ミーチャ -027 あした、<sup>がっこう</sup>学校できいてみましょう。 -028 <sup>ば しょ</sup>場所は？  
-029 どこがいい？ -030 プレゼントは、<sup>なに</sup>何がいい？

張 -031 そうねえ。

ミーチャ -032 そうだ、あのビルの中<sup>なか</sup>においしいロシア料理<sup>りょうり</sup>の店<sup>みせ</sup>があるんです。

---

セグメント 25 <sup>そつぎょう</sup>卒業コンサート

---

(映像素材(c)・ストーリーIV「恋人」(c))

---

<sup>とうじょう じんぶつ</sup>登場人物 <sup>むらい あきこ だいがく ねんせい</sup>村井亜紀子 (大学3年生)

<sup>ふかざわよしあき だいがく ねんせい あきこ こいびと</sup>深沢良昭 (大学4年生, 亜紀子の恋人)

<sup>すぎやま なおき ふかざわ こうはい</sup>杉山直樹 (深沢の後輩)

---

場面(1) <sup>だいがく こうどう</sup>大学の講堂。

アナウンス -001 <sup>けいざい がくぶ ねん</sup>つぎは, 経済学部4年, <sup>ふかざわよしあきくん</sup>深沢良昭君。 -002 <sup>きよく</sup>曲は,  
<sup>なんぶうしお うた</sup>南部牛追い唄。 -003 <sup>しゃくはち</sup>尺八ばんそうは, <sup>しょうがくぶ ねん</sup>商学部3年, <sup>すぎやまなおき</sup>杉山直樹くん  
です。

---

場面(2) <sup>うた ふかざわ はる やま むら ふうけい</sup>歌う深沢, 春の山や村の風景



---

セグメント 26 ふりそで — おそ 教わる —

---

(ストーリー I 「勉強」 (h))

---

とうじょう じんぶつ ちょうぎよくへい ちゅうごくじん にほんごがっこうがくせい  
登場人物 張 玉萍 (中国人, 日本語学校学生)

じん ちょう どうきゅうせい  
パチャリー・ラタナーワン (タイ人, 張の同級生)

たけだよしこ ちょう ほしょうにん むすめ かし いしょうや てんいん  
武田芳子 (張の保証人の娘) 貸衣装屋の店員

---

かしいしょうや  
場面(1) 貸衣装屋のカウンター。

店員 -001 お着物<sup>きもの</sup>と、帯<sup>おび</sup>と、襦袢<sup>じゅばん</sup>と、あとひもなんかはお貸<sup>か</sup>しします  
ので、足袋<sup>たび</sup>はおきやくさまの方<sup>ほう</sup>で用意<sup>ようい</sup>していただけますか。

芳子 -002 襦袢<sup>じゅばん</sup>って、下着<sup>したぎ</sup>ね。

---

かがみ まえ  
場面(2) 鏡<sup>かがみ</sup>の前<sup>まえ</sup>。

パチャリー -003 これ、長<sup>なが</sup>すぎますね。

店員 -004 あ、後<sup>あと</sup>ですそを持ち上げるんですよ。 -005 ここをひもで  
しめて。 -006 その上<sup>うえ</sup>にこれをしめて、帯<sup>おび</sup>をしめて、帯<sup>おび</sup>じめをしめ  
ると。

パチャリー -007 わあ、しめて、しめて。

張 -008 ひもとか、帯<sup>おび</sup>とか、ぜんぶで何本<sup>なんぽん</sup>ぐらいしめるんですか。

店員 -009 ま、そんなにたくさんじゃありません。 -010 5, 6本<sup>ほん</sup>ぐ  
らいですね。

パチャリー -011 5本<sup>ほん</sup>！

---

場面(3) 鏡<sup>かがみ</sup>の前<sup>まえ</sup>。

張 -012 えりは、どんなふうにすればいいですか。

店員 -013 後ろ<sup>うし</sup>を少しぬいて、<sup>すこ</sup>

張 -014 ぬいて、っていうのは……。

店員 -015 こういうふう<sup>あ</sup>にちょっと開けるんですね。

張 -016 はあ。

店員 -017 そして、前<sup>まえ</sup>はこのくらい。

---

場面(4) 他<sup>ほか</sup>のふりそで<sup>き</sup>を着<sup>き</sup>てみるパチャリー。

店員 -018 まず、こうして、かたにかけてから、手<sup>て</sup>を入<sup>い</sup>れてください  
ね。

張 -019 どうですか。

芳子 -020 うん、きれい。 -021 でも、ちょっとおとなしいんじゃない  
かな。

店員 -022 そうですね。 -023 やはり、あちら<sup>あか</sup>の赤<sup>ほう</sup>の方がおきれいで  
すかしら。

芳子 -024 張<sup>ちょう</sup>さん、せが<sup>たか</sup>高いから、大きいもよう<sup>おお</sup>の方がにあうんです  
よね。

店員 -025 ちょっと、帯<sup>おび</sup>をあわせてみましょうね。

張 -026 芳子<sup>よしこ</sup>さんは着物<sup>きもの</sup>を着<sup>き</sup>ることがありますか。

芳子 -027 いいえ、ほとんどありませんね。 -028 お正月<sup>しょうがつ</sup>にも着<sup>き</sup>ない  
し。 -029 成人式<sup>せいじんしき</sup>の時に着<sup>とき</sup>ましたけど。

---

場面(5) <sup>かがみ</sup>鏡の<sup>まえ</sup>前。

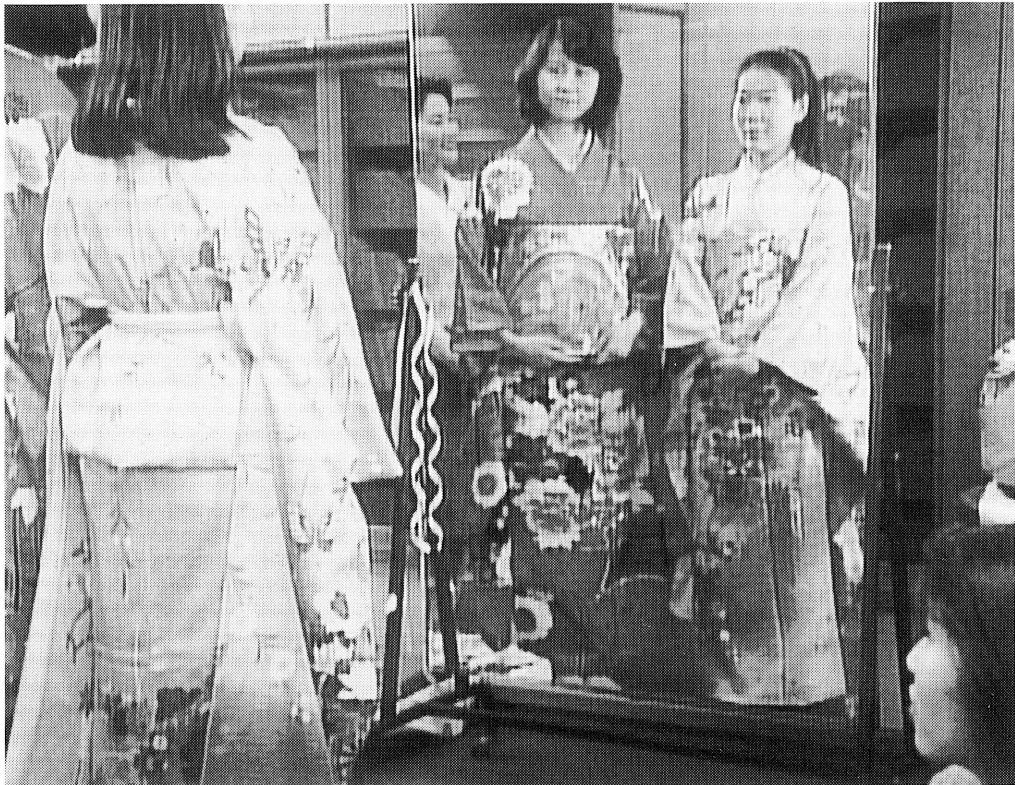
芳子 -030 うーん、<sup>ふたり</sup>二人とも、いいですね。

パチャリー -031 これは、ふりそでっていうんですか。

店員 -032 はい。 -033 こういうそでの<sup>なが</sup>長いのがふりそでで、おじょうさんがおめしんなるんですね。 -034 あと、<sup>と</sup>留め袖とか、<sup>そで</sup>訪問着とか、<sup>つ</sup>付け<sup>さ</sup>下げとか、いろいろございますけど。

芳子 -035 うーん、どちらがうのかぜんぜん<sup>し</sup>知らないなあ。

パチャリー -036 <sup>にほんぶんか</sup>日本文化、<sup>べんきょう</sup>勉強してください。





---

セグメント 27 ソトかウチか — 敬語 —  
(ストーリーⅢ「仕事」(g))

---

とうじょう じんぶつ  
登場人物 エレン・ソウザ (ブラジル人, アルバイト)

クラウディア・ロッシ (イタリア人, アルバイト)

いけだ ようこ  
池田洋子 (ヤングトラベルの社員)

はんばいそくしんぶちょう  
販売促進部長

---

場面(1) ひるやす きかくか  
昼休み。ヤングトラベル企画課。

クラウディア -001 それで、スキー場にじょうに着いたんですけど、つぎの  
あさ 朝、ねつがで出てしまつて。

エレン -002 ええ? -003 ひどいねつ?

クラウディア -004 はか計ってみたら、8ど3ぶ分あったんです。

エレン -005 ほんとお。-006 じゃあ、スキーなんかとんでもないよ  
ねえ。

クラウディア -007 エレンさん、おべんとうは自分じぶんで作るんですか。

エレン -008 ええ、そう。-009 毎日まいにちじゃないけどね。-010 ……ね  
え、クラウディアさん、

クラウディア -011 はい?

エレン -012 あのう、ですとか、はいとかって、言わなくてもいいん  
じゃない。

クラウディア -013 ああ、そうですか。-014 ……ていねいすぎます  
ね。

エレン -015 うん。

クラウディア -016 だけど、日本語はこれしか知らないんですよ。

場面(2) <sup>ご ご じ ふん</sup> 午後1時5分。

部長 -017 <sup>たにやま</sup> 谷山くん、どこにいます？

エレン -018 あ、<sup>ぶちよう</sup> 部長。-019 ええと、おきやくさまとお<sup>しょくじ</sup> 食事にいら  
っしゃいました。

部長 -020 あ、そう。-021 もどったら、<sup>でん わ</sup> 電話するように<sup>い</sup> 言ってくだ  
さい。

エレン -022 はい、わかりました。-023 ねえ、<sup>いま</sup> 今の、いらっしゃい  
ましたでよかった？

クラウディア -024 さあ……。 -025 <sup>い</sup> 行っております、かなあ。

エレン -026 <sup>ぶちよう</sup> 部長って、<sup>ひと</sup> ソトの人？

池田 -027 <sup>にほんじん</sup> 日本人だってわかんないわよ、そんなの。

---

セグメント 28 お祝いです — 贈り物 —

(ストーリーIV「恋人」(d))

---

とうじょう じんぶつ    むらい    あきこ    だいがく    ねんせい       ふかざわよしあき    だいがく    ねんせい  
登場人物    村井亜紀子 (大学3年生)    深沢良昭 (大学4年生)  
                  みやた あい    ふかざわ    こうはい  
                  宮田愛 (深沢の後輩)

---

場面(1) <sup>だいがく    なか</sup> 大学の中。

亜紀子 -001 これ、あげます。 -002 どうぞ。 -003 さし<sup>あ</sup>上げます。

-004 うーん、へんね。 -005 これ、<sup>そつぎょう</sup>卒業です、じゃない、<sup>そつぎょういわ</sup>卒業祝  
い<sup>い</sup>です。 -006 プレゼント！ -007 うーんと、<sup>き</sup>気に入<sup>い</sup>ってくださる  
といいんですけど。 -008 ああ、わかさが<sup>き</sup>ない。 -009 <sup>き</sup>気に入<sup>い</sup>って、  
くれるかな。

宮田 <sup>ふかざわせんばい</sup> -010 深沢先輩ですか。 -011 プレゼントですか。 -012 ネクタイ  
かなあ。 -013 ちがうな。 -014 ベルト！ -015 いやっ、おさいふ！  
-016 そうでしょう。

亜紀子 -017 え、ええ、まあ。

宮田 <sup>ふかざわせんばい    ほっかいどう    かいしゃ</sup> -018 深沢先輩、北海道の会社ですってえ？ -019 どうするん  
で  
すか。

亜紀子 -020 さあ。 -021 ……<sup>べつ</sup>別に。

宮田 <sup>ほっかいどう    い</sup> -022 いっしょに北海道行きたいでしょう。

亜紀子 -023 さあ。

宮田 -024 けっこうするんですか。

亜紀子 -025 そんな。 -026 かんけいないでしょ。

宮田 -027 もうそろそろ来<sup>き</sup>ますよ。

亜紀子 -028 来<sup>こ</sup>ないのお？ -029 早<sup>はや</sup>く来<sup>こ</sup>ないと，帰<sup>かえ</sup>っちゃうから。

-030 あと，10びょう。 -031 10，9，8，7，6，5，……

深沢 -032 あれ，あっこ。

亜紀子 -033 あ。

深沢 -034 どうしたの。

亜紀子 -035 ええ。 -036 あの，これ……

深沢 -037 え？

亜紀子 -038 卒<sup>そつぎょう</sup>業，おめでとう。

深沢 -039 ああ。 -040 ありがとう。



---

セグメント 29 <sup>わたし げんこう</sup>私の原稿は — <sup>い ちが</sup>行き違い —  
(ストーリーⅡ「友達」(h))

---

とうじょう じんぶつ おう すうりよう ちゅうごくじん だいがくいんせい きょういくぎょうせいせんこう  
登場人物 王 崇梁 (中国人, 大学院生, 教育行政専攻)

やまだ やすひろ だいがく こくごがっかじょしゅ  
山田康浩 (大学の国語学科助手)

---

場面(1) <sup>だいがく なか</sup>大学の中。

王 -001 <sup>やま だ</sup>山田さん。

山田 -002 ああ, <sup>おう</sup>王さん。

王 -003 よかった。 -004 <sup>かえ</sup>帰ってしまったかと思いました。

山田 -005 え, <sup>なに よう</sup>何か用ですか。

王 -006 ええ, これ, <sup>きょういくがくぶ ろんぶんしゅう だ</sup>教育学部の論文集に出そうと思うんです。

山田 -007 へえ, それはいいですねえ。

王 -008 それで, <sup>やま だ</sup>山田さん, <sup>にほんご</sup>日本語のまちがっているところをなお  
していただけませんか。

山田 -009 ええ……, いいですけど……, <sup>きょういく</sup>ぼくは教育のこと, わから  
ないからなあ。

王 -010 いえ, <sup>にほんご</sup>日本語としておかしいところだけでいいですから。

山田 -011 いつまでですか。

王 -012 <sup>き らいしゅう</sup>しめ切りは来週なんです。

山田 -013 今日は, <sup>きんよう</sup>金曜だから, <sup>いそ</sup>急ぎますね。 -014 ぼくも, ちょ  
っと書かなきゃならないげんこうがあるんですよ。 -015 <sup>よ</sup>読めるか  
なあ。

王 -016 むりですか。

山田 -017 たぶん、火曜日<sup>かようび</sup>んなるなあ。 -018 だれかほかの人<sup>ひと</sup>にたの  
んだほうがいいですよ。

王 -019 いえ、火曜日<sup>かようび</sup>ならだいじょうぶです。 -020 じゃあ、ちょ  
っと急ぎますから、これで。 -021 よろしくおねがいします。

山田 -022 ああ、いちおう<sup>よ</sup>読んでみますけど、だれかほかの人<sup>ひと</sup>にもた  
のんでくださいね。

---

場面(2) 次<sup>つぎ</sup>の火曜日<sup>かようび</sup>の午後<sup>ごご</sup>3時<sup>じ</sup>ごろ。国語学科研究室<sup>こくごがっかけんきゅうしつ</sup>の前<sup>まえ</sup>。

---

場面(3) 午後<sup>ごご</sup>5時<sup>じ</sup>前<sup>まえ</sup>。

王 -023 山田<sup>やまだ</sup>さあん。

山田 -024 ああ、王<sup>おう</sup>さん。

王 -025 げんこう、読んでいただけましたか。

山田 -026 いやあ、ぼくのげんこう、ゆうべてつやして書いて、今<sup>いま</sup>、  
やっと出<sup>だ</sup>したところなんです。 -027 今<sup>いま</sup>から読<sup>よ</sup>ませてもらいます。

王 -028 えっ、これから？

山田 -029 ええ。

王 -030 だけど、わたしもあしたの朝<sup>あさ</sup>までに出<sup>だ</sup>さなければならない  
んですよ。

山田 -031 えっ、あしたの朝<sup>あさ</sup>……。 -032 今週中<sup>こんしゅうちゅう</sup>じゃなかったんです  
か。…… -033 だれか、ほかの人<sup>ひと</sup>にはたのまなかったんですか。

王 -034 ええ、山田<sup>やまだ</sup>さんが火曜日<sup>かようび</sup>って言<sup>い</sup>ったから……。

山田 -035 すいません。 -036 はっきりことわればよかったですね。

王 -037 ええ。 -038 ……わかりました。

---

セグメント 30 さよならですか ― 伝える ―

(ストーリーIV「恋人」(e))

---

とうじょうじんぶつ  
登場人物

むら い あ き こ だいがく ねんせい  
村井亜紀子 (大学4年生)

ふかざわよしあき あ き こ こいびと ほっかいどう かいしゃ しゅうしょく  
深沢良昭 (亜紀子の恋人, 北海道の会社に就職した)

どうなんじょうほうしゃいん  
道南情報社員たち

しんにゅうしゃいん  
新入社員たち

ふかざわ はは  
深沢の母

ふかざわ いもうと  
深沢の妹

しんにゅうしゃいん か ぞく  
新入社員の家族たち

---

場面(1) こうえん  
公園。

亜紀子 -001 おつかれさま。

深沢 -002 ま 待った？

亜紀子 -003 うん, ちょっとね。 -004 おなかすいちゃった。

深沢 -005 うん。 -006 ……その前<sup>まえ</sup>にね, ちょっと話<sup>はなし</sup>があるんだ。

亜紀子 -007 え？

深沢 -008 じつはね, 札幌<sup>さっぽろ</sup>の本社<sup>ほんしゃ</sup>へ行くことになっちゃったんだ。

亜紀子 -009 ……そう。

深沢 -010 ……ごめん。

亜紀子 -011 いつまで？

深沢 -012 すく 少なくとも, 2, 3年<sup>ねん</sup>, だろうな。

亜紀子 -013 じゃ, もう会<sup>あ</sup>えませんか。

深沢 -014 いや, そんな……。 -015 やす 休み<sup>やす</sup>がとれたら, 東京<sup>とうきょう</sup>に帰<sup>かえ</sup>ってくるよ。 -016 ……夏<sup>なつ</sup>休み<sup>やす</sup>には, あそびにきて。

亜紀子 -017 うん。 -018 そうね。 -019 ひこうき 飛行機<sup>ひこうき</sup>なら, すぐよね。

深沢 -020 うん。 -021 ……<sup>でん わ</sup>電話するよ。

亜紀子 -022 お仕事<sup>しごと</sup>，がんばってね。

場面(2) <sup>はねだくこう</sup>羽田空港。

社員 -023 ええと，そろそろ<sup>はい</sup>入りましょうか。

母 -024 わすれ<sup>もの</sup>物はないの？

深沢 -025 ああ。

母 -026 <sup>からだ き</sup>体に気をつけてね。

深沢 -027 うん。 -028 いきます。 -029 じゃな。

<sup>かい</sup>2階から<sup>み</sup>見ている<sup>あ き こ</sup>亜紀子。<sup>はい</sup>ゲートに入る<sup>ふかざわ</sup>深沢。<sup>ある</sup>歩きだす<sup>あ き こ</sup>亜紀子。





---

セグメント 31 うまく書けました — 筆で書く —

---

(ストーリー I 「勉強」 (i))

---

とうじょう じんぶつ ちょうぎよくへい ちゅうごくじん だいがくりゅうがくせい  
登場人物 張 玉萍 (中国人, 大学留学生)

パチャリー・ラタナーワン (タイ人, 大学留学生, 張の  
にほんごがっこうじだい どうきゅうせい  
日本語学校時代の同級生)

ミーチャ (ロシア人, 大学留学生, 張の日本語学校時代  
どうきゅうせい  
の同級生)

さわむらみつこ しょどう おし  
沢村美津子 (書道を教えている)

---

場面(1) さわむら け ざしき  
沢村家の座敷。

沢村 -001 点<sup>てん</sup>は、小<sup>ちい</sup>さな三<sup>さん</sup>角<sup>かく</sup>を書<sup>か</sup>くように。-002 よこのせんは、下<sup>お</sup>  
ろして、筆<sup>ふで</sup>の先<sup>さき</sup>をのこしてひきます。-003 ここは、折<sup>お</sup>れですね。  
-004 たてのせんは、筆<sup>ふで</sup>の先<sup>さき</sup>がまんなかを通<sup>とお</sup>るようにして、一<sup>いっ</sup>気<sup>き</sup>に  
ひきます。-005 はねですね。-006 これは、左<sup>ひだり</sup>下<sup>した</sup>からやや右<sup>みぎ</sup>上<sup>うへ</sup>に。  
-007 それから、左<sup>ひだり</sup>へゆるくはらいます。-008 まっすぐじゃなく  
て、少<sup>すこ</sup>しまるくなりますね。-009 こちらは、筆<sup>ふで</sup>を下<sup>お</sup>ろしてから、  
まっすぐにはらって、今<sup>こん</sup>度<sup>ど</sup>は、だんだんに力<sup>ちから</sup>を入<sup>い</sup>れていって、ここ  
で一<sup>いち</sup>度<sup>ど</sup>止<sup>と</sup>めて、少<sup>すこ</sup>しづつ少<sup>すこ</sup>しづつぬいていきます。

---

場面(2) ちょう えい か お  
張, 「永」を書き終わる。

張 -010 どうですか。

沢村 -011 ええ、さすがにお上<sup>じょうず</sup>手<sup>て</sup>ですねえ。 -012 りっぱな字<sup>じ</sup>だわ。

パチャリー -013 ああ、だめ。 -014 うまいきませんね。

沢村 -015 張さん、<sup>ちょう</sup>なにかすきなものを<sup>か</sup>書いてみてくださいいな。

-016 ああ、そうですね。 -017 ちょっと<sup>ふで</sup>筆<sup>も</sup>を持ってみてください。  
い。 -018 あ、<sup>ふで</sup>筆はね、もっとまっすぐに。 -019 ねかさないでくださいね。

パチャリー -020 そうですか。

沢村 -021 そうそう。 -022 それで、<sup>いち ど お</sup>一度に下ろさないようにして、  
<sup>うご</sup>動かしてみてください。

パチャリー -023 こんなふうですか。

沢村 -024 そうそ。 -025 それで、<sup>ちから い</sup>力を入れるところは、<sup>ちから</sup>しっかり力  
<sup>い</sup>を入れて。 -026 こことか、こことかね。

ミーチャ -027 <sup>せんせい</sup>先生、たてのせんが、どうしても<sup>ま</sup>曲がってしまうんです。

沢村 -028 ああ、いきおいよく<sup>か</sup>書いてしまえばだいじょうぶですよ。

ミーチャ -029 そうですか。

張 -030 <sup>せんせい</sup>先生、ちょっと<sup>み</sup>見ていただけますか。

沢村 -031 あら、かなですか。

張 -032 はい。 -033 わたしには、やはり<sup>か</sup>かながむずかしいんです。

沢村 -034 なるほどね。 -035 でも、<sup>か</sup>うまく書けていますよ。

---

場面(3) <sup>さわむら</sup>沢村、<sup>そうしょ</sup>草書<sup>か</sup>を書く。

パチャリー -036 あのう……これ、<sup>か</sup>なんて書いてあるんですか。

沢村 -037 くさ、ばな。

---

セグメント 32 お通夜<sup>つや</sup> — 気持ち<sup>きも</sup>を表す<sup>あらわ</sup> —

---

(ストーリーⅡ「友達」(i))

---

登場人物 王<sup>おう</sup> 崇梁<sup>すうりやう</sup> (中国人<sup>ちゅうごくじん</sup>, 大学院生<sup>だいがくいんせい</sup>)  
朴<sup>バク</sup> 海煥<sup>へファン</sup> (韓国人<sup>かんこくじん</sup>, 大学院生<sup>だいがくいんせい</sup>, 王の先輩<sup>おう せんぱい</sup>)  
山田<sup>やま</sup> 康浩<sup>だやすひろ</sup> (大学<sup>だいがく</sup>の助手<sup>じょしゅ</sup>)

---

場面(1) 王<sup>おう</sup>のへや。

王 -001 もしもし。

朴 -002 朴<sup>バク</sup>です。 -003 朝早く<sup>あさはや</sup>ごめんなさい。

王 -004 ああ。

朴 -005 内田先生<sup>うちだせんせい</sup>がね、

王 -006 内田先生<sup>うちだせんせい</sup>？

朴 -007 さっき、なくなっただです。

王 -008 えっ？

朴 -009 3時<sup>じ</sup>20分<sup>ぶん</sup>に……。

王 -010 ……どうして。

朴 -011 心臓<sup>しんぞう</sup>です。 -012 それで、……

---

場面(2) お通夜<sup>つ や しきじょう</sup>の式場。

王 -013 どうもありがとうございます。

山田 -014 このたびはどうも……。 -015 びっくりしました。

王 -016 わたしもです。

山田 -017 何か<sup>なに</sup>お手伝い<sup>て つだ</sup>することがあったら、言<sup>い</sup>ってください。

王 -018 ありがとうございます。 -019 朴<sup>バク</sup>さんにきいていただけま  
すか。 -020 中<sup>なか</sup>にいますから。

山田 -021 はい。

---

場面(3) 祭壇<sup>さいだん</sup>。

---

場面(4) 玄関<sup>げんかん</sup>の前<sup>まえ</sup>。

王 -022 山田<sup>やまだ</sup>さん、てつだわせてしまって、すいませんでした。

山田 -023 ああ、いえ。 -024 朴<sup>バク</sup>さん、おつかれさま。

朴 -025 なんだか、ほんとうにつかれました。

王 -026 朴<sup>バク</sup>さんは、ゆうべからねていないんですよ。

朴 -027 いや、それより、……なんだか、あたまの中<sup>なか</sup>がからっぽに  
なったみたいで。

山田 -028 内田<sup>うちだ</sup>先生<sup>せんせい</sup>は、朴<sup>バク</sup>さんの指導<sup>しどうきょうかん</sup>教官<sup>こうかん</sup>だったんですね。

朴 -029 はい。 -030 いい先生<sup>せんせい</sup>だったのに……。 -031 これからど  
うすればいいか……。

山田 -032 おいくつでしたっけ。

王 -033 まだ、49<sup>さい</sup>歳。 -034 早<sup>はや</sup>すぎますよ。

山田 -035 ざんねんですねえ。 -036 ほんとうにおいしいことです。

朴 -037 まるで悪い<sup>わる</sup>ゆめみたいですよ。

王 -038 朴<sup>バク</sup>さん、元<sup>げん</sup>氣<sup>き</sup>出して。

朴 -039 うん。

王 -040 内<sup>うち</sup>田<sup>だ</sup>先生<sup>せんせい</sup>のためにもね、がんばらなくちゃ。

山田 -041 王<sup>おう</sup>さん、ず<sup>き</sup>っと氣<sup>き</sup>になってたんですけど、……いつかのげんこう。

王 -042 あ、いんさつ<sup>とき</sup>の時<sup>み</sup>に見<sup>み</sup>ていただきました……内<sup>うち</sup>田<sup>だ</sup>先生<sup>せんせい</sup>に。

山田 -043 内<sup>うち</sup>田<sup>だ</sup>先生<sup>せんせい</sup>に……。



---

セグメント 33 いやだよねえ — あいづち —

---

(ストーリーⅢ「仕事」(h))

---

登場人物 とうじょう じんぶつ エレン・ソウザ (ブラジル人<sup>じん</sup>, アルバイト)

クラウディア・ロッシ (イタリア人<sup>じん</sup>, アルバイト)

---

場面(1) エレンとクラウディア, はな あ 話合っている。

エレン -001 よる でんしゃ 夜, 電車にのるとね,

クラウディア -002 ええ。

エレン -003 ひと よっぱらってる人がいるじゃない。-004 おお 大きなこえを  
だ 出したりい, ひと 人にぶつかったりねえ。-005 あれって, なんか, は  
じ ぶん ずかしいよねえ。-006 の 自分のうちで飲むならね, いんだけど。

クラウディア -007 パーティーとかね。

エレン -008 そうそう。-009 ば しよ プライベートな場所なら, もんだい 問題ないけ  
ど。-010 おも こわいと思うこと, ない? -011 ひと わかい人は, あんまり  
いないかなあ。-012 がくせい 学生は, ときどきいるよね。-013 でも, やっ  
ちゅうねん ひと ぱり, おじさん。-014 中年の人ね。-015 いま 今のわかい人<sup>ひと</sup>が中年<sup>ちゅうねん</sup>に  
なったら, どうなるのかな。

---

場面(2) <sup>はな</sup>話すクラウドディア。

エレン -016 <sup>しごと</sup>仕事はどう？

クラウドディア -017 うん、まあ、<sup>たの</sup>楽しいですね。

エレン -018 そう。

クラウドディア -019 ええ。 -020 みんな、<sup>しんせつ</sup>親切だし。

エレン -021 こまったことは？

クラウドディア -022 ええと、<sup>しごと</sup>仕事の<sup>じかん</sup>時間がね、

エレン -023 <sup>じかん</sup>時間？

クラウドディア -024 <sup>しごと</sup>仕事が始まる<sup>はじ</sup>時間<sup>じかん</sup>がきまっていますけどお、

エレン -025 ああ。

クラウドディア -026 <sup>しゃいん</sup>社員<sup>ひと</sup>の人は、なかなか<sup>はじ</sup>始めませんよねえ。

エレン -027 まあねえ。

クラウドディア -028 そのかわり、すごくおそくまではたらくでしよう。

エレン -029 <sup>ざんぎょう</sup>残業ねえ。

クラウドディア -030 それから、つきあいとか。

エレン -031 そうねえ。 -032 ……でも、わたしたちは、アルバイトだから。

クラウドディア -033 ええ。 -034 <sup>さき</sup>先に<sup>かえ</sup>帰りますけどお、

エレン -035 うん。

クラウドディア -036 ちょっとお、<sup>わる</sup>悪いような<sup>き</sup>気がして。

エレン -037 ああ、そうか。

クラウドディア -038 <sup>かえ</sup>帰りにくいんですよ。

場面(3) <sup>はな あ ふたり</sup> 話し合う二人。

エレン -039 おさしみってね、だめなの。

クラウド <sup>た</sup> -040 食べられないんですか。

エレン -041 ええ。-042 なんか、<sup>き も わる</sup> 気持ち悪くて。

クラウド -043 そうですか。

エレン <sup>くち い</sup> -044 口に入れると、つめたくて。

クラウド -045 うーん、まあねえ。

エレン -046 それから、へんなにおいがするでしょう。

クラウド -047 たしかに、ちょっとにおいはあるけどお。

エレン <sup>さかな</sup> -048 なまの魚はネコのえさ！

クラウド -049 おいしいのになあ。

エレン -050 ほかのものは、たいていすき。

クラウド <sup>くに</sup> -051 まあ、どこの国にも、かわった<sup>た</sup>食べ物<sup>もの</sup>ってあるから。

エレン <sup>ひと</sup> -052 ああ、人によってもちがうかもしれないね。



---

セグメント 34 すれ違い ― 事情を話す ―

(ストーリーIV「恋人」(f))

---

とうじょう じんぶつ むら い あ き こ だいがく ねんせい  
登場人物 村井亜紀子 (大学4年生)

ふかざわよしあき あ き こ こいびと  
深沢良昭 (亜紀子の恋人)

---

場面(1) ショッピングモール。

でん わ よ だ おん  
電話の呼び出し音。

亜紀子 -001 はい、村井でございます。

深沢 -002 あ、あのう深沢ですが、亜紀子さん……。

亜紀子 -003 あ、……。

深沢 -004 あっこ？

亜紀子 -005 ……はい。

深沢 -006 よかった。 -007 すぐに電話できなくて、ごめん。

亜紀子 -008 きのう、4時だったよね。

深沢 -009 うん。 -010 ちょっと、おくれちゃったんだ。 -011 5分  
ぐらい。

亜紀子 -012 わたしも2、3分おくれたけど、1階の入り口で待って  
たのよ。

深沢 -013 うん。 -014 それがさ、ぼくが、場所をまちがえたらし  
い。

亜紀子 -015 え？

深沢 -016 いちばん<sup>した</sup>下がさ、

亜紀子 -017 ええ。

深沢 -018 1階<sup>かい</sup>だと思<sup>おも</sup>ったんだ。

亜紀子 -019 ああ、いちばん<sup>した</sup>下<sup>ち</sup>は、地下<sup>か</sup>1階<sup>かい</sup>なのよ。

深沢 -020 うん。ぜんぜん<sup>き</sup>気がつか<sup>な</sup>なかつたんだ。

亜紀子 -021 そう。

深沢 -022 ときどきは、上<sup>うへ</sup>の方<sup>ほう</sup>も見<sup>み</sup>たりしたんだけどね。

亜紀子 -023 わたしもね、

深沢 -024 うん。

亜紀子 -025 気<sup>き</sup>になって、下<sup>した</sup>へ見<sup>み</sup>にいったの。

深沢 -026 ああ。

亜紀子 -027 けっこう動<sup>うご</sup>いてたから。

深沢 -028 ああ。

亜紀子 -029 たぶん、その時<sup>とき</sup>ね。

深沢 -030 うん、そうだね。

亜紀子 -031 あーあ。が一<sup>い</sup>つかり。

深沢 -032 うん。

亜紀子 -033 せっかく<sup>たの</sup>しみにしてたのに。

深沢 -034 それでね、

亜紀子 -035 <sup>いま</sup>今、<sup>さっぽろ</sup>札幌？

深沢 -036 いや。それがね、

亜紀子 -037 <sup>とうきょう</sup>東京なの？

深沢 -038 <sup>とうきょう</sup>東京だよ。

亜紀子 -039 じゃ、<sup>あ</sup>会える？

深沢 -040 <sup>いま</sup>今、<sup>びょういん</sup>病院なんだ。

亜紀子 -041 えっ？



<sup>とうじょう</sup> 登場人物 <sup>おとこ</sup> 男の子 <sup>ははおや</sup> 母親 <sup>おんな</sup> 女の子 <sup>ゆうれい</sup> (幽霊)

場面(1) <sup>よる</sup> 夜8時<sup>じ</sup>すぎ。子供<sup>こども</sup>部屋<sup>べや</sup>。

男の子 -001 お母<sup>かあ</sup>さーん、スタンドがきえた。

母親 -002 なぁに？ -003 <sup>はや</sup>早くねなさいよ。

男の子 -004 ついたあ。

母親 -005 もうスタンドをけしなさい。

男の子 -006 うーん。…… -007 ぼうしがおちた。

母親 -008 <sup>はや</sup>早くねなさい。

母親 -009 <sup>なに</sup>何してるの。 -010 あんたがたおしたの？

男の子 -011 ちがうよ。 -012 たおれたんだよ。

母親 -013 これもおとして。

男の子 -014 ぼくじゃないよ。

母親 -015 どうしてこわすのお。

男の子 -016 ぼく、こわさない。 -017 <sup>しぜん</sup>自然にこわれたんだよ。

男の子 -018 ほら、<sup>き</sup>切れた。

母親 -019 どうして。 -020 <sup>き</sup>だれが切ったの。

女の子、オルゴールを鳴らす。母親、オルゴールを止め、ナップザックをひろう。<sup>おんな</sup> 女の子<sup>こ</sup>を見つけて、<sup>き</sup>気をうしない、たおれる。

男の子 -021 お母<sup>かあ</sup>さん！ (<sup>おんな</sup> 女の子<sup>こ</sup>を見つめる) -022 <sup>で</sup>出た……。

---

セグメント 36 インタビュー — 聞き手と話し手 —

(ストーリー I 「勉強」 (j))

---

とうじょう じんぶつ ちょうぎよくへい ちゅうごくじん だいがくりゅうがくせい  
登場人物 張 玉萍 (中国人, 大学留学生)

パチャリー・ラタナーワン (タイ人, 大学留学生, 張の  
にほんごがっこうじだい どうきゅうせい  
日本語学校時代の同級生)

ミーチャ (ロシア人, 大学留学生, 張の日本語学校時代  
どうきゅうせい  
の同級生)

たけだ よしこ ちょう ほしょうにん むすめ  
武田芳子 (張の保証人の娘)

---

場面(1) ハイキングコース。

---

場面(2) かわら  
川原。

芳子 -001 ええ、それでは、ここでみなさんにインタビューをしてみ  
ましょう。

張 -002 やあだ、芳子さん、それ、なに？

芳子 -003 ええ、みなさんは、それぞれだいがく にゅうがく  
たわけですが、大学の生活はいかがでしょうか。-004 それでは、  
まず張さん。

張 -005 あ、わたくしですか。-006 はい、たの  
す。

芳子 -007 授業<sup>じゅぎょう</sup>はむずかしいですか。

張 -008 そんなにむずかしくはありませんけど、日本人<sup>にほんじん</sup>の名前<sup>なまえ</sup>とか、  
れきしのかんけいのことばとか、

ミーチャ -009 固有名詞<sup>こゆうめいし</sup>ねえ。

張 -010 そう。-011 わからないよねえ。

芳子 -012 ありがとうございます。-013 それでは、パチャリーさんはいかがですか。

パチャリー -014 ええ、なんですか。

芳子 -015 大学<sup>だいがく</sup>の方<sup>ほう</sup>は。

パチャリー -016 毎日<sup>まいにち</sup>行<sup>い</sup>っています。

芳子 -017 いや、その、勉強<sup>べんきょう</sup>はむずかしいですか。

パチャリー -018 はい、むずかしいです。-019 それから、りょうが  
とおくて、大学<sup>だいがく</sup>へ行<sup>い</sup>くだけでつかれてしまいます。

ミーチャ -020 わたしの下宿<sup>げしゆく</sup>はね、

芳子 -021 友達<sup>ともだち</sup>ができないって、言<sup>い</sup>ってましたね。

パチャリー -022 んー、日本人<sup>にほんじん</sup>の大学生<sup>だいがくせい</sup>は、授業<sup>じゅぎょう</sup>が終<sup>お</sup>わると、すぐ  
帰<sup>かえ</sup>ってしまっ、

芳子 -023 ああ。

パチャリー -024 話<sup>はな</sup>せないんです。

芳子 -025 そうですか。-026 そのへん、張<sup>ちょう</sup>さんはいかがですかあ。

張 -027 それにね、あまり授業<sup>じゅぎょう</sup>に出<sup>で</sup>ない学生<sup>がくせい</sup>がいるんですね。-028  
ちょっとおどろきました。

ミーチャ -029 ああ、そうそう。-030 うちの大学も同じです。

芳子 -031 あんまり勉強<sup>べんきょう</sup>してない。

ミーチャ -032 さあ、それはよくわかりません。

パチャリー -033 でもね、悪いけど、日本<sup>にほん</sup>の大学生は、外国<sup>がいこく</sup>のこと、  
あまり知らないんじゃないかと思<sup>おも</sup>いますね。

芳子 -034 外国<sup>がいこく</sup>のこと？

ミーチャ -035 そうそう。-036 こないだもね、

芳子 -037 ちょっと待<sup>ま</sup>って。-038 パチャリーさん、どうぞ。

パチャリー -039 たとえば、タイはどこにあるか、知<sup>し</sup>ってます？

芳子 -040 ええと、だいたい。

ミーチャ -041 うん、もっともっと勉強<sup>べんきょう</sup>しなければ。…… -042 は  
い、歌<sup>うた</sup>いまあす。



---

セグメント 37 まだ<sup>いた</sup>痛いですか — お見<sup>み</sup>舞<sup>ま</sup>い —

---

(ストーリーIV「恋人」(g))

---

とうじょう じんぶつ とうじょう じんぶつ とうじょう じんぶつ とうじょう じんぶつ  
登場人物 村井<sup>むらい</sup>亜<sup>あ</sup>紀<sup>き</sup>子<sup>こ</sup> (大学<sup>だいがく</sup>4<sup>ねん</sup>生<sup>せい</sup>)

ふかざわよしあき あ き こ こいびと  
深沢<sup>ふかざわ</sup>良<sup>よし</sup>昭<sup>あき</sup> (亜<sup>あ</sup>紀<sup>き</sup>子<sup>こ</sup>の恋人<sup>こいびと</sup>)

みや た あい ふかざわ だいがく こうはい かん ごくせい じん  
宮田<sup>みや</sup> 愛<sup>あい</sup> (深沢<sup>ふかざわ</sup>の大学<sup>だいがく</sup>の後<sup>こう</sup>輩<sup>はい</sup>) 看護<sup>かん</sup>学生<sup>ごくせい</sup> (ロシ<sup>ろし</sup>ア<sup>あ</sup>人<sup>じん</sup>)

ひろかわ たけし にゅういんかんじゃ かなざわしょうじ にゅういんかんじゃ  
広川<sup>ひろかわ</sup> 猛<sup>たけし</sup> (入院<sup>にゅういん</sup>患者<sup>かんじゃ</sup>) 金沢<sup>かなざわ</sup>省<sup>しょう</sup>二<sup>じ</sup> (入院<sup>にゅういん</sup>患者<sup>かんじゃ</sup>)

---

場面<sup>びょういん</sup>(1) 病院。

宮田 -001 せーんばい。

深沢 -002 ん? -003 ああ、きみか。

宮田 -004 ええ、<sup>じゅぎょう</sup>授業<sup>き</sup>, さぼって来<sup>き</sup>ちゃった。-005 どうですかあ。

深沢 -006 うん、まあまあ。

宮田 -007 まだ、<sup>お</sup>起き<sup>お</sup>られないんですか。

深沢 -008 あと二<sup>に</sup>, 三日<sup>さんにち</sup>は歩<sup>ある</sup>いちゃいけないって。

宮田 -009 退院<sup>たいいん</sup>は、いつごろになるんですか。

深沢 -010 あと十日<sup>とおか</sup>ぐらいじゃないかなあ。

宮田 -011 ねえ、どうして事故<sup>じこ</sup>にあっただんですか。

深沢 -012 え、いや、……ちよっと、<sup>ま</sup>待ちあわせ<sup>ま</sup>におくれそうになっ  
て。

宮田 -013 ふーん。

---



看護学生 -014 深沢<sup>ふかざわ</sup>さん、明日<sup>あした</sup>、もう一度<sup>いちど</sup>けんさをしますから、午前<sup>ごぜん</sup>中に<sup>ちゅう</sup>。

深沢 -015 はい。

看護学生 -016 9時半<sup>じはん</sup>ごろに、よび<sup>き</sup>に来ます。

深沢 -017 わかりました。

---

宮田 -018 それじゃ、あたしは。

深沢 -019 ああ。-020 ……どうもありがとう。(亜紀子<sup>あきこ</sup>に) -021 すわって。

亜紀子<sup>あきこ</sup> -022 お花<sup>はな</sup>。-023 あ、こっち、おいとくわね。-024 どこ、けがしたんですか。

深沢 -025 ああ、うでは、たいしたことない。-026 足<sup>あし</sup>は、ほねがおれてて。

亜紀子 -027 いたいの？

深沢 -028 うん。-029 まだ、ちょっとね。

亜紀子 -030 あたまは？

深沢 -031 あ、これはちょっと切<sup>き</sup>れただけ。

亜紀子 -032 ごめんなさい。-033 わたし、ぜんぜん気<sup>き</sup>がつかなかった。

深沢 -034 いやあ、ぼくがまちがえたせいだから。

---

セグメント 38 <sup>ゆめ</sup>夢なんです — <sup>き ぼう の</sup>希望を述べる —

---

(ストーリーⅡ「友達」(j))

---

<sup>とうじょう</sup>登場人物 <sup>じんぶつ</sup>王 <sup>おう</sup>崇梁 <sup>すうりょう</sup>(<sup>ちゅうごくじん</sup>中国人, <sup>だいがくいんせい</sup>大学院生)

<sup>やまだ</sup>山田 <sup>やすひろ</sup>康浩 <sup>だいがく</sup>(<sup>じょしゅ</sup>大学の助手)

---

場面(1) <sup>だいがく</sup>大学の中。<sup>なか</sup>

王 -001 <sup>やま</sup>山田さん。<sup>だ</sup>

山田 -002 ああ、おはようございます。

王 -003 おそうしきの<sup>とき</sup>時は、どうも。

山田 -004 いやあ。いろいろたいへんだったでしょう。 -005 <sup>けんきゅうしつ</sup>研究室  
の<sup>せいり</sup>整理なんかどうするんですか。

王 -006 ええ、<sup>はやしきょうじゅ</sup>林教授がなさるそうです。

山田 -007 <sup>うちだ</sup>内田先生が<sup>せんせい</sup>しどうなさっていた<sup>がくせい</sup>学生は？

王 -008 <sup>せんせいがた</sup>ほかの先生方が<sup>み</sup>見てくださるそうですけど、<sup>ハク</sup>朴さんなん  
か、すっかり<sup>げんき</sup>元気をなくしてしまっ

山田 -009 そうですか。 -010 <sup>うちだせんせい</sup>内田先生、<sup>せんせい</sup>いい先生だったようす  
ね。

王 -011 ええ、……わたしの<sup>ろんぶん</sup>れいの論文もね、<sup>よ</sup>読んでくださって、  
これはひじょうにおもしろい、いいかんてんだって、はげましてく  
ださったんですよ。

王 -012 国<sup>くに</sup>にとって、人<sup>ひと</sup>がいちばん大切<sup>たいせつ</sup>だと思うんです。-013 だから、教育<sup>きょういく</sup>学<sup>がく</sup>をやろうと思ったんです。-014 ……勉強<sup>べんきょう</sup>しているうちに、学生<sup>がくせい</sup>をじっさいに教<sup>おし</sup>える先生<sup>せんせい</sup>をそだてる<sup>じゅうよう</sup>ことがとても重要<sup>じゅうよう</sup>だと気がついたのでした。

山田 -015 それが、教育行政<sup>きょういくぎょうせい</sup>っていうわけですね。

王 -016 そうなんです。-017 わたしはね、国<sup>くに</sup>へ帰<sup>かえ</sup>ったら、学校<sup>がっこう</sup>の先生<sup>せんせい</sup>たちのために研修<sup>けんしゅう</sup>のシステム<sup>システム</sup>をつくりたいんです。-018 新しい<sup>あたらしい</sup>教<sup>おし</sup>え方<sup>かた</sup>を勉強<sup>べんきょう</sup>できるようにね。

山田 -019 ……たいへんな仕事<sup>しごと</sup>になるでしょう。

王 -020 まあ、ゆめなんですよ。

山田 -021 ふーん。大き<sup>おお</sup>なゆめですよ。-022 王<sup>おう</sup>さん、今日<sup>きょう</sup>は授業<sup>じゅぎょう</sup>ですか。

王 -023 いえ、朴<sup>ハク</sup>さんが話<sup>はなし</sup>があるっていうんで。-024 11<sup>じ</sup>時に会<sup>あ</sup>うやくそくです。

山田 -025 じゃ、話<sup>はなし</sup>がすんだら、ぼくのへや<sup>き</sup>に来<sup>き</sup>ませんか。

王 -026 え、後<sup>あと</sup>でお電話<sup>でんわ</sup>します。

---

セグメント 39 <sup>き</sup>決めました — <sup>けつ い の</sup>決意を述べる —

---

(ストーリーⅡ「友達」(k))

---

とうじょう じんぶつ おう すうりょう ちゅうごくじん だいがくいんせい  
登場人物 王 崇梁 (中国人, 大学院生)

バク ヘファン かんこくじん だいがくいんせい おう せんばい  
朴 海煥 (韓国人, 大学院生, 王の先輩)

やま だやすひろ だいがく じょしゅ  
山田康浩 (大学の助手)

---

場面(1) セグメント38と同じ日, <sup>おな ひ</sup>午後4時ごろ。

王 (電話) -001 <sup>やま だ</sup>山田さん, ……ええと, <sup>バク はなし</sup>朴さんの話… …できたら  
いっしょに<sup>き</sup>聞いてもらいたいと思うんですが。-002 ……今, <sup>いま</sup>エス  
ポワールにいるんです。-003 <sup>き</sup>来ていただけますか。……

---

場面(2) スナック, エスポワール。

王 -004 <sup>バク</sup>朴さんはね, <sup>だいがく</sup>この大学をやめるって言うんです。

山田 -005 へえ。

朴 -006 <sup>らいげつ</sup>来月からアメリカへ行きます。-007 <sup>ちか しりつ</sup>シカゴの近くの私立  
<sup>だいがく</sup>大学なんですけど, <sup>せんせい</sup>いい先生がいるんです。

---

山田 -008 <sup>バク</sup>朴さんのテーマは, <sup>い</sup>どんなことでしたっけ。

朴 -009 ええ。……<sup>きょういく</sup>教育には, <sup>つか</sup>かならずことばが使われるでしょ  
う。-010 <sup>けんきゅう</sup>そのことばのことを研究したいんです。

山田 -011 ええと, <sup>げんごきょういく</sup>言語教育っていうことですか。

王 -012 <sup>すうがく り か</sup>いえ, 数学とか理科とか<sup>しゃかい</sup>社会とか, ね。

朴 -013 数学すうがくを教おしえるときに、どんなことばでせつめいすればいいか、どんなふうにひょうげんすればわかりやすいか、といったことです。

山田 -014 なるほど。教育きょういくの手段しゅだんとしての言語げんご。

朴 -015 それを研究けんきゅうしていらっしゃったのが、内田先生うちだ せんせいでした。

山田 -016 ……ほかにしどうしてくれる人ひとはいないんですか。

朴 -017 この大学だいがくではむずかしいと思おもいます。-018 国くにへ帰かえろうかとも思おもったんですけどね。-019 アメリカは、そういう研究けんきゅうがすすんでるんですよ。

---

場面(3) 話はなす3人にん。

山田 -020 朴さんバクに会あえなくなると、さびしいなあ。

王 -021 ええ、もっといろんなことを話はなしたかったなあ。

朴 -022 わたしもざんねんですけど、……でもね。-023 ……また日本にほんにも来きますよ。

山田 -024 せっかく友達ともだちになったんだから、これからね。

王 -025 ええ、ずっと友達ともだちですよ。

---

セグメント 40 これからも…… — 退院 —

---

(ストーリーIV「恋人」(h))

---

とうじょう じんぶつ むらい あきこ だいがく ねんせい  
登場人物 村井亜紀子 (大学4年生)

ふかざわよしあき あきこ こいびと  
深沢良昭 (亜紀子の恋人)

かんご がくせい じん  
看護学生 (ロシア人)

ひろかわ たけし にゅういんかんじゃ  
広川 猛 (入院患者)

かなざわしょうじ にゅういんかんじゃ  
金沢省二 (入院患者)

---

場面(1) びょういん  
病院。

深沢 -001 いろいろお世話になりました。

広川 -002 おめでとう。-003 おれ、まだしばらくかかりそうだよ。

深沢 -004 お大事に。-005 金沢さんも、お大事に。

金沢 -006 深沢さん、うらやましいよ。 -007 ぼくももう退院したいなあ。

深沢 -008 あせらないほうがいいよ。-009 ゆっくりなおしてね。

看護学生 -010 あ、深沢さん、おうちの方はいらっしゃらないんですか。

深沢 -011 ええ。-012 だいじょうぶですよ。

看護学生 -013 そうですか。-014 じゃあ、荷物、持ちましょう、げんかんまで。

深沢 -015 あ、いや、いいですよ。

看護学生 …… -016 あ、なんだ。-017 じゃ、いいですね。

深沢 -018 お世話になりました。

亜紀子 -019 ぐあいはどう？

深沢 -020 うん、だいじょぶ。

亜紀子 -021 よかった。-022 じゃ、荷物<sup>にもつ</sup>。

広川 -023 ほおー。

金沢 -024 わあー。

深沢 -025 行<sup>い</sup>こう。

深沢 -026 それじゃ、お大事<sup>だいじ</sup>に。

---

場面(2) 病院<sup>びょういん</sup>の前<sup>まえ</sup>。

亜紀子 -027ほんとに、しんばいしたんだから。

深沢 -028 いやあ、しんばいしたよ。

亜紀子 -029 でも、よかった、早<sup>はや</sup>くよくなって。-030 わたしとつきあうのはほねがおれるでしょ。

深沢 -031 じょうだんじゃなくてさ。-032 ……これからもねえ。

-033 どうなるかなあ。

亜紀子 -034 だいじょうぶよ、しんじてるから。

深沢 -035 うん。-036 ……そうだね。

亜紀子 -037 だいじょぶよ。

---

場面(3) 走る車<sup>はし くるま</sup>。

日本語教育映像教材初級編「日本語でだいじょうぶ」

作成関係者

(所属職名等は平成8年3月1日現在)

【日本語教育映画等企画協議会委員】

(所外委員) カッケンブッシュ寛子(国際基督教大学教授)

高木 裕子(山形大学助教授)

土井 真美(国立国語研究所客員研究員)

山下 早代子(国際基督教大学講師)

山元 啓史(筑波大学助手)

(国立国語研究所 相沢 正夫(日本語教育センター第1研究室長)

所内委員) 石井 恵理子(日本語教育研修室研究員)

熊谷 康雄(情報資料研究部第2研究室主任研究官)

杉戸 清樹(言語行動研究部第1研究室長)

【国立国語研究所内関係者】

水谷 修(所長)

甲斐 睦朗(日本語教育センター長)

西原 鈴子(日本語教育指導普及部長)

中道 真木男(日本語教育教材開発室長)

熊谷 智子(日本語教育教材開発室主任研究官)

【企画・シナリオ執筆協力者】

有賀千佳子	稲葉みどり	小川早百合	北野美穂	黒野敦子
田中真理	玉置亜衣子	寺田裕子	土井真美	四方田千恵



日本語教育映像教材 初級編「日本語でだいじょうぶ」  
シナリオ集

平成8年（1996年）3月25日発行

企画・監修 国立国語研究所

作 成 日本シネセル

発 行 株式会社インターコミュニケーション

〒107 東京都港区赤坂 1-9-15

自転車会館

TEL 03-3589-4530

FAX 03-3589-4583

